令和４年度

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業

研究開発実施 報告書

令和5年3月

新潟県立三条高等学校
Niigata Prefectural Sanjo High School

巻頭言

新潟県立三条高等学校長　内田 卓利

広大な越後平野の中に県央地域と呼ばれている一帯があり、金属加工業で広く知られ、技術や質の高さは国内及び海外から注目されています。また、農業や木工業でも知名度が高く、多様な地場産業で発展してきた地域でもあります。それらの産業は国内外を見据えた展開を繰り広げており、新潟県内でも広く海外に目を向けた地域といえます。

本校はこの県央地域に、１９０１年（明治３４年）に創立され、これまでに国や地域の発展に寄与するリーダーや海外で活躍する人材を多く輩出してきました。今後もその役割を担い続けることが期待されており、そのためにも、国際社会で必要な視点と将来を見据えたイノベーティブな態度を高校生の段階から養うことが重要と捉えております。

昨年度からＷＷＬ（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の指定を受けることができましたが、今年度は新たに国の予算をいただいて取組んでおります。前述した地域や本校の特性を踏まえて、構想名「希望に満ちた未来を創るリーダー育成システムの構築　～地場産業の町・日本の穀倉地帯からＳＤＧｓ達成を目指す～」のもと、次の４点を「育成したい資質・能力」として教育活動を進めています。

① アイデンティティ・マインドセット	③ 自ら設定した課題を探究し、解決する力
② 現代社会の課題を理解する力	④ コミュニケーションスキル

本校は、ＳＧＨなどの実践土台をもちませんが、独自の「燦光プラン」を発展させ、「グーローカル探究」、「ＷＷＬ情報科学」、「ＳＤＧｓ世界史」、「ＷＷＬ論理表現」の学校設定科目の開講及び事業協働機関の大学や団体等の協力を得ながら取り組みを進めています。今年度は、新型コロナウイルスによる制約が徐々に緩和される中でフィールドワークを実施したり、大学の先生や学生にご来校いただいて生徒にご指導いただいたりするなど、臨場感・現実感に触れながら、昨年度以上に充実した探究活動を行うことができました。

また、国際交流にも力を入れた一年でした。10 月には６日間にわたり、長岡技術科学大学の大学院で学ぶ海外留学生とオンラインで結び、生徒一人一人の英語による課題研究発表に対して指導やコメントをいただきました。12 月の２日間は、日本の大学で学ぶ 30 カ国 40 人の海外留学生等を招いて、国際理解や各国のＳＤＧｓの取組をもとに、私たちはいかに持続可能社会の実現に向けて取組むかを英語で議論をしました。新たな視点を得るとともに、生徒がそれぞれの語学力により様々な国の人と話そうとする意欲を向上させる機会となりました。また、台湾、ラオス、モンゴルなどの学校とのオンライン交流も回を重ねるとともに、本校の新しい一頁としてベトナムへ研修旅行も開始しました。

拠点校としては、「今、私たちが考えること～地域・世界･未来に向けて～」というテーマで「ＷＷＬ新潟・高校生フォーラム」を主催しました。県央地域の特色ある学校や県内のＳＳＨ・旧ＳＧＨ校の他に、県外・海外の学校や国内大学で学ぶ海外留学生からご参加いただく企画は、本校にとって初めてのことでした。他のＷＷＬ校からは周回遅れの感はありますが、県外や海外を含めた他校とのネットワークの意義を実感する貴重な機会となりました。

次年度は、今年度を踏まえ、実践による検証の充実、国際会議の開催、ネットワーク構築の充実、大学教育の先取り履修に向けた研究及び自走化に向けた資金調達システムの構築などに取組んでいきたいと思います。

今年度の運営にあたり、運営指導委員・検証委員や関係団体の皆様、本校主催のフォーラムや交流会にご参加いただいたり視察等でご指導くださった学校の皆様、そして全国高校生フォーラムや連絡協議会等でよき刺激をいただいた多くの皆様に深く感謝を申し上げます。

目次

巻頭言
1　概要
(1) 構想計画書（概要） …… 1
(2) ビジュアル資料 …… 3
(3) 教育課程表等 …… 4
2　拠点校の取組 …… 7
(1) カリキュラム開発 …… 7
①　学校設定科目「グローカル探究」 …… 7
ア　ＷＷＬ特講 …… 7
イ　課題探究 …… 11
ウ　グローカルフィールドワーク …… 18
エ　探究活動の評価について …… 19
②　「ＳＤＧｓ世界史」 …… 24
③　「ＷＷＬ情報」 …… 25
④　「ＷＷＬ論理・表現Ⅰ」 …… 25
(2) 連携校との取組等～ネットワーク構築に向けて～ …… 26
①　長野県上田高校主催高校生国際会議への参加 …… 26
②　「世界津波の日」2022 高校生サミット in 新潟への参加 …… 26
③　全国高校生フォーラム …… 26
④　ＷＷＬ新潟・高校生フォーラム …… 26
(3) 海外交流 …… 27
①　留学生受入れ …… 27
②　オンライン交流 …… 27
③　海外研修 …… 27
(4) 教員研修・他校視察 …… 28
(5) 生徒・職員対象アンケートの分析 …… 29
3　管理機関の取組 …… 33
(1) 第１回運営指導委員会・第１回検証委員会 …… 33
(2) 第２回運営指導委員会 …… 34
(3) 第３回運営指導委員会・第２回検証委員会 …… 35
(4) カリキュラム・アドバイザーによる拠点校指導 …… 36
(5) クラウドファンディングの実施準備 …… 36
4　令和４年度グローカル探究活動報告（抜粋）2022【２学年・１学年】 …… 37

１　概要

（１）構想計画書（概要）

◆構想概要等

①期間	令和３年度～令和５年度
②構想名	希望に満ちた未来を創るリーダー育成システムの構築 ～地場産業の町・日本の穀倉地帯からＳＤＧｓ達成を目指す～
③構想概要	拠点校が所在する三条・燕を中心とした県央地域は、金属加工や農業が盛んで、品質の高い製品・農産物を生産し、独創的なアイディアで世界に進出する企業が集まり、ＳＤＧｓは重大な関心事である。この特色を背景に、「産業」「農業・食料」「環境」を基本テーマとしながら、ＳＤＧｓ達成に向け、地元企業等と連携しながら地域課題の理解を深めるとともに、海外の高校・大学等とのオンライン交流・国際会議等を通じ、視野を広げて課題を捉え直し、課題解決を目指して、科学技術を活用しながら探究を深めていくカリキュラムを開発し、その成果を県内に拡大する。この実現に向けて、地域・県・世界をつなぐＡＬネットワークを構築し、大学、企業機関等と協働して、オンライン・オフラインの両面から高度な学びを提供する。カリキュラム等の開発成果は、随時、ＳＮＳ等で広く発信し、次世代を牽引する人材育成スキーム新潟モデルを示し、ＳＤＧｓ達成に寄与する。

◆令和４年度実施体制

①管理機関		新潟県教育委員会（担当：高等学校教育課）
②事業拠点校		新潟県立三条高等学校
	対象学年	１学年（令和４年度入学生）・２学年（令和３年度）入学生
	校内組織	ＷＷＬ事業部（校長、教頭、担当教諭４人） ・カリキュラム開発、実施 １学年、２学年の担任・副任、３学年の副任 ・学校設定科目「グローカル探究」の指導 海外交流アドバイザー ・海外交流関係事業の連絡・調整、海外進学関連の事務 事務補助員 ・事務局の庶務 ＷＷＬ推進・総合探究委員会 教頭、各学年、教務部、進路指導部、ＷＷＬ事業部から選出された教員１１人

※カリキュラム・アドバイザー（２人）

県教育委員会の指導主事２人（高等学校教育課１人、教育センター１人）が事業拠点校のカリキュラム開発を指導・支援。

◆連携機関

①連携大学	長岡技術科学大学 新潟大学 新潟県立大学 三条市立大学
②連携企業	三条市商工会議所及び加入企業 燕市商工会議所及び加入企業 ＪＡ全農にいがた
③連携機関	ＪＥＴＲＯ新潟 ＪＩＣＡ東京（新潟デスク）
④事業連携校	［県央ネット：拠点校が所在する県央地区の学校４校］ 新潟県立三条東高等学校 新潟県立新潟県央工業高等学校 新潟県立三条商業高等学校 新潟県立加茂農林高等学校 新潟県立燕中等教育学校
	［ＮＳＨネット：（新潟スーパーハイスクール）　県内ＳＳＨ校５校、ＳＧＨネットワーク指定校１校］ 新潟県立新潟南高等学校 新潟県立新発田高等学校 新潟県立長岡高等学校 新潟県立柏崎高等学校 新潟県立高田高等学校 新潟県立国際情報高等学校
	［ＮＧＰネット（新潟グローバルパートナーズ）　海外連携校］ 中華人民共和国ハルビン市　黒龍江省実験中学 ロシア連邦ハバロフスク市　地方立教育機関 ベトナム社会主義共和国ハイフォン市　チャンフー高等学校
	［北海道北信越東海地域ブロックＡＬネットワーク校］ 名古屋大学教育学部付属中・高等学校 長野県上田高等学校 愛知県立千種高等学校 金沢大学人間社会学域学校教育類附属高等学校 静岡県立三島北高等学校 北海学園札幌高等学校

【新潟県】ＷＷＬコンソーシアム構築支援事業

Society5.0が求める資質能力を育成する学習基盤・教育課程を、三条高校を中心に開発し、全県・全国・世界へ発信する！

管理機関の構想

○グローバル人材育成スキーム「新潟モデル」の開発

○新潟の課題解決・SDGs達成を目指す探究カリキュラム

○学習基盤構築
- ・グローバル
- ・高大接続
- ・企業連携

長期的目標（10年）
- 国際会議海外開催
- 海外大学単位認定
- 同窓組織の自立

中期的目標（３～５年）
- 国際会議の開催
- 国内大学単位認定
- ネットワーク充実

短期的目標（１～３年）
- NGPnetの構築
- 県央netの整備
- NSHnetとの連携

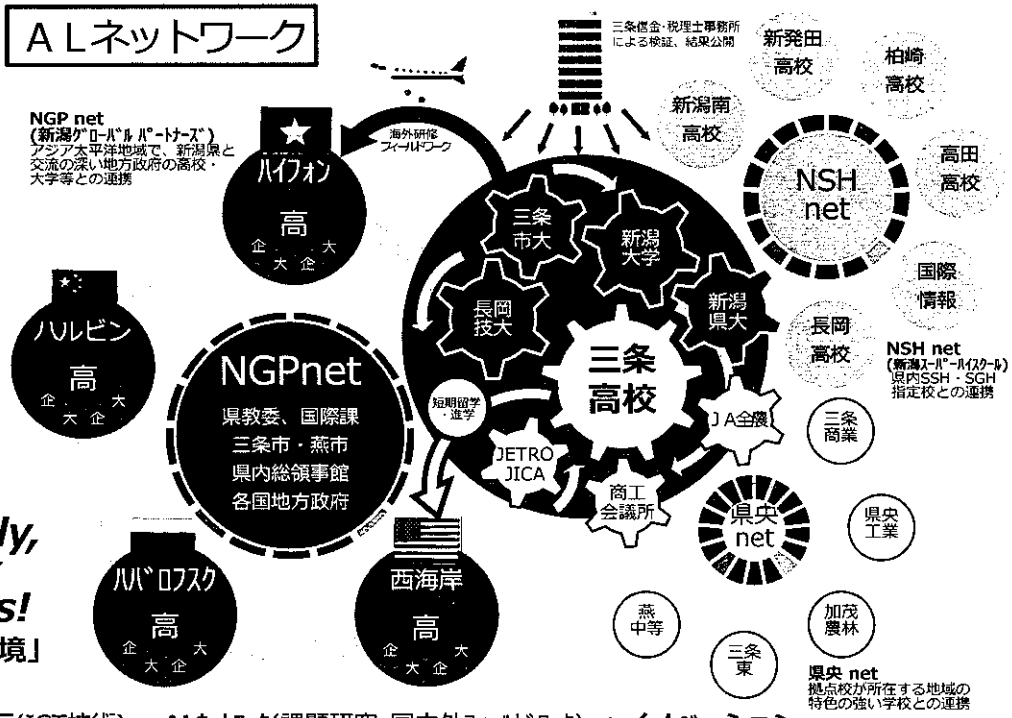
クラウドコンソーシアム

探究テーマ

Think Globally, Act Locally toward SDGs!

「地場産業・農業・環境」

ＡＬネットワーク



拠点校のカリキュラム開発構想

不易(伝統の授業) × **流行**(ICT技術) × **ALネットワーク**(課題研究・国内外フィールドワーク) ⇒ **イノベーション**

三条高校	１年生『調査・課題把握』	２年生『主体性・協働・探究』	３年生『行動・発信・挑戦』
伝統・実績 ○教科横断の授業改善 ○地域から世界への視野	**STEAM教育** ＳＤＧｓ×情報×教科連携 **GCS**（グローバルキャリアスタディ） 世界進出の地元企業等訪問	**STEAM教育** 地域連携×課題研究 **GCS** ユニコーン企業・大学等訪問	**STEAM教育** 課題解決策×大学教育先取り **GCS** 海外大学サマーコース準備
○学校設定教科・科目 ○課題研究 ○探究力育成	**「グローカル探究」：GFW × 大学特別講義 × 課題研究 × クラウド・オンライン** GFW（グローカルフィールドワーク）：県内・県央地域FW → 国内FW → 海外FW **「ＳＤＧｓ」×「情報科学・データサイエンス」× 地域課題 × 協働 × 探究** 文理横断した知を活用→地域課題解決とSDGs達成に向け 主体的・協働的に探究→発信		**STEAM教育** 国内外大学進学準備 **GCS** 海外大学サマーコース受講
			高校生国際会議
			高大接続（大学単位認定）

研究例 ①産業科学・ナノテクノロジーと金属加工、②農業法人起業（食料安全保障・ハイテク農業・経営）、③白鳥のGPS追跡による気候変動調査

国内外の大学等でSDGs達成を目指し探究・挑戦しつづける

（３）教育課程表等

教育課程（令和２年度入学生）

教科	科目	標準単位数	1年	2年文系	2年理系	3年文系A 必修	3年文系A 選択	3年文系B 必修	3年文系B 選択	3年理系 必修	3年理系 選択
国語	国語総合	4	5								
	現代文B	4		2	2	3		3		2	
	古典A	2									2
	古典B	4		3	3	4		4		2	
地理歴史	世界史A	2		2	2						
	世界史B	4						5			
	日本史B	4		4 ┐1科目		3 ┐1科目		3 ┐1科目			
	地理B	4		4 ┘	3	3 ┘		3 ┘		2	
公民	倫理	2	2								
	政治・経済	2	2								
	＊倫理探究α					3 ┐1科目					
	＊倫理探究β					┘			2		2
	＊政治・経済探究α					3 ┘					
	＊政治・経済探究β								2		2
数学	数学Ⅰ	3	3								
	数学Ⅱ	4	1	4	4						
	数学Ⅲ	5								[8] ┐1科目	
	数学A	2	2								
	数学B	2		2	2						
	＊数学総合α					5 ┐1科目		5 ┐1科目			
	＊数学総合β					┘		┘		6 ┘	
	＊数学探究α					5 ┘		5 ┘			
	＊数学探究β									6 ┘	
理科	物理基礎	2		2 ┐	2						
	物理	4			1 ┐					6 ┐	
	化学基礎	2	2	1科目	1科目					1科目	
	化学	4			2 ┘					5 ┘	
	生物基礎	2	2								
	生物	4			1 ┘	[6] ┐1科目		[4] ┐1科目		6 ┘	
	地学基礎	2		2 ┘							
	＊理科基礎探究α			2							
	＊理科基礎探究β					4 ┘					
	＊生物・地学基礎探究α					4 ┘					
	＊生物・地学基礎探究β							2 ┘			
保健体育	体育	7～8	3	3	3	2		2		2	
	保健	2	1	1	1						
芸術	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	2	2								
	音楽Ⅱ 美術Ⅱ 書道Ⅱ	2					2		2		
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	4								
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4	4						
	コミュニケーション英語Ⅲ	4				4		4		4	
	英語表現Ⅰ	2	2								
	英語表現Ⅱ	4		2	2	3		3		2	
家庭	家庭基礎	2		2	2						
情報	情報の科学	2	2								
英語	英語理解						2		2		2
教科合計			33	33	33	31[33]	2[0]	31[33]	2[0]	31[33]	2[0]
総合的な探究の時間		3	1	1	1	1		1		1	
特活	ホームルーム活動	3	1	1	1	1		1		1	
総計			35	35	35	35		35		35	

＊は学校設定科目

注意事項　１年次　・芸術（必修）は、音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰから１科目を選択する。
３年次〔文系Ａ・Ｂコース〕
・地理歴史（必修）の日本史Ｂ・地理Ｂは、２年次で履修した科目を選択する。
・芸術（選択）は、１年次に履修した科目のⅡを選択する。
〔理系コース〕
・理科（必修）の物理・生物は、２年次で履修した科目を選択する。
※単位数に［　］の付く科目を選択した場合の合計単位数は［　］内の数になり、選択単位数は０である。

教育課程（令和３年度入学生）

教科	科目	標準単位数	1年	2年文系	2年理系	3年文系A 必修	3年文系A 選択	3年文系B 必修	3年文系B 選択	3年理系 必修	3年理系 選択
国語	国語総合	4	5								
	現代文B	4		2	2	3		3		2	
	古典A	2									2
	古典B	4		3	3	4		4		2	
地理歴史	世界史A	2									
	世界史B	4						5			
	日本史B	4		4 ┐1科目		3 ┐1科目		3 ┐1科目			
	地理B	4		4 ┘	3	3 ┘		3 ┘		2	
公民	倫理	2	2								
	政治・経済	2	2								
	＊倫理探究α					3 ┐1科目					
	＊倫理探究β								2		2
	＊政治・経済探究α					3 ┘					
	＊政治・経済探究β								2		2
数学	数学Ⅰ	3	3								
	数学Ⅱ	4	1	4	4						
	数学Ⅲ	5								[8] ┐	
	数学A	2	2								
	数学B	2		2	2						1科目
	＊数学総合α					5 ┐1科目		5 ┐1科目			
	＊数学総合β									6	
	＊数学探究α					5 ┘		5 ┘			
	＊数学探究β									6 ┘	
理科	物理基礎	2		2 ┐	2						
	物理	4			1 ┐					6 ┐	
	化学基礎	2	2	1科目							1科目
	化学	4			2 1科目					5	
	生物基礎	2	2								
	生物	4			1 ┘	[6] ┐		[4] ┐		6 ┘	
	地学基礎	2		2 ┘							
	＊理科基礎探究α			2		1科目		1科目			
	＊理科基礎探究β					4					
	＊生物・地学基礎探究α					4 ┘					
	＊生物・地学基礎探究β							2 ┘			
保健体育	体育	7～8	3	3	3	2		2		2	
	保健	2	1	1	1						
芸術	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	2	2								
	音楽Ⅱ 美術Ⅱ 書道Ⅱ	2					2		2		
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	4								
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4	4						
	コミュニケーション英語Ⅲ	4				4		4		4	
	英語表現Ⅰ	2	2								
	英語表現Ⅱ	4		2	2	3		3		2	
家庭	家庭基礎	2		2	2						
情報	情報の科学	2									
＊WWL	＊グローカル探究		1	1	1	1		1		1	
	＊SDGs世界史			2	2						
	＊WWL情報科学		2								
英語	英語理解						2		2		2
教科合計			34	34	34	32[34]	2[0]	32[34]	2[0]	32[34]	2[0]
総合的な探究の時間		3									
特活	ホームルーム活動	3	1	1	1	1		1		1	
総計			35	35	35	35		35		35	

＊は学校設定教科・科目

注意事項　世界史Aは、SDGs世界史で、情報の科学は、WWL情報科学で、総合的な探究の時間は、グローカル探究で、それぞれ代替
1年次　・芸術（必修）は、音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰから1科目を選択する。
3年次〔文系A・Bコース〕
・地理歴史（必修）の日本史B・地理Bは、2年次で履修した科目を選択する。
・芸術（選択）は、1年次に履修した科目のⅡを選択する。
〔理系コース〕
・理科（必修）の物理・生物は、2年次で履修した科目を選択する。
※単位数に［　］の付く科目を選択した場合の合計単位数は［　］内の数になり、選択単位数は0である。

教育課程（令和４年度入学生）

教科	科目	標準単位数	1年	2年文系	2年理系	3年文系	3年理系A	3年理系B
国語	現代の国語	2	2					
	言語文化	2	3					
	論理国語	4		2	2	3	2	2
	文学国語	4						
	国語表現	4						
	古典探究	4		3	2	3	2	2
地理歴史	地理総合	2	2					
	地理探究	3		3		4	3	3
	歴史総合	2	2	3		4		
	日本史探究	3		3		4		
	世界史探究	3		3		4		
公民	公共	2		2	2	4		
	倫理	2				4		
	政治経済	2				4		
	＊人文社会					2		
						4		
数学	数学Ⅰ	3	4					
	数学Ⅱ	4		4	4			
	数学Ⅲ	3					5	
	数学A	2	2					
	数学B	2		2	2			
	数学C	2				2	2	2
	＊数学総合					2		
	＊数学探究							3
理科	物理基礎	2	2					
	物理	4			2		5	5
	化学基礎	2		2	2		5	5
	化学	4			2		5	5
	生物基礎	2	2		2			
	生物	4			2		5	5
	地学基礎	2						
	＊化学基礎活用					2		
	＊生物基礎活用					2		
保健体育	体育	7～8	3	3	3	2	2	2
	保健	2	1	1	1			
芸術	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	2	2					
	音楽Ⅱ 美術Ⅱ 書道Ⅱ	2				2		
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3					
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4	4			
	コミュニケーション英語Ⅲ	4				6	4	6
	論理・表現Ⅰ	2						
	論理・表現Ⅱ	2						
	論理・表現Ⅲ	2						
家庭	家庭基礎	2		2	2			
情報	情報Ⅰ	2						
＊WWL	＊WWL論理・表現Ⅰ		3					
	＊WWL論理・表現Ⅱ			3	3			
	＊WWL論理・表現Ⅲ					2	2	2
	＊WWL情報		1	1	1			
	＊グローカル探究		2	2	2	1	1	1
教科合計			34	34	34	33	33	33
総合的な探究の時間		3						
特活	ホームルーム活動	3	1	1	1	1	1	1
総計			35	35	35	34	34	34

＊は学校設定教科・科目

注意事項　１年次　「芸術Ⅰ」は、「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」のいずれか１科目を選択する。
２年次［文系］「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」から１科目を選択する。
［理系］「物理」か「生物」を選択する。
３年次［文系］「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」について、２年次の科目を継続履修する。
「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「倫理」「政治・経済」「人文社会」＋「芸術Ⅱ」から１科目選択する。地歴２科目を選択する場合は２年次履修していない科目とする。「芸術Ⅱ」は１年次の履修科目とする。
［理系］「物理」「生物」は、２年次の科目を継続履修する。

2　拠点校の取組

（1）カリキュラム開発

教科「WWL」として、「グローカル探究」「ＳＤＧｓ世界史」「WWL情報」「WWL論理・表現Ｉ」等の科目を設定し、探究活動を軸に据えた学習内容の研究開発に努めた。

① 学校設定科目「グローカル探究」

ア WWL特講、イ 課題研究、ウ グローカルフィールドワーク、エ 評価等について、以下に示す。

ア　WWL特講

令和４年度は合計７回の特別講義を実施した。大学教授や自治体職員、経営者を講師に迎えて、専門性の高い講義を行うことにより、生徒の興味、関心及び知見の拡大をねらうとともに、社会の第一線で活躍する方々の生の声による、モチベーションやアントレナーシップ喚起効果をねらうプログラムとして位置づけている。特に10月と11月の講義は、講義の感想や講義後の講師を交えた座談会の様子から、興味関心への刺激とともに、学校生活や進路へのモチベーション、将来の起業についての思いを大いに刺激したことがうかがえた。

ｉ）実施一覧

No	実施日	講義内容	講師
1	5/18	性の多様性と人権（ＬＧＢＴＱ） １～３年生対象	若井博幸氏 ペランギ倶楽部にいがた
2	5/26	自治体の地域課題への取組 ２年生対象	石井美紀氏　三条市政策推進課 渡辺優輝氏　燕市企画財政課 加茂市　吉田商工観光課課長 大竹農林課課長 石附環境課課長
3	6/15	ＳＤＧｓについて １年生対象	太田朋子氏 長岡技術科学大学
4	7/9	※社会人講義 １～２年生対象	三高ＯＢを含む14人
5	9/28	データにみる新潟県 １年生対象	太田雄介氏　新潟県統計課
6	10/6	未来の地球のためにできること １～３年生対象	鈴木美奈氏　国境なき医師団
7	11/9	見る前に跳べ！Learning by Doingで切り拓く未来とは？ １年生対象	菊地恵理子氏 タイガーモブ株式会社

ii）各講義の概要

No. 1　５月１８日（水）12：55～14：50

内容　「性の多様性と人権」（ＬＧＢＴＱ）

差別のない社会を作り上げていくために考えるべき重要な視点として、近年取り上げられることが多くなった性的少数者（ＬＧＢＴＱ）の人権の問題・差別の問題の実状についての理解を深めることを目的とした。生徒の関心も高いテーマであり、ＬＧＢＴＱについて丁寧な解説もあって生徒の理解を深めることができた。

講師　若井博幸氏（ペランギ倶楽部新潟）

No. 2　５月２８日（水）13:45～15:45

内容　「自治体の地域課題への取組」

２年生が地域課題について探究する前提として、生徒が居住する市町村がどのような問題意識を持って地域の施策に取り組んでいるのか、について確認する機会として設定した。生徒は、自分の居住する、あるいは近隣市町村を選択し、各々の担当者からの説明と質疑応答を行った。市町村の職員からは重点課題だけでなく、ＳＤＧｓとの関わりについても言及していただいた。

講師　三条市政策推進課石井美紀氏
燕市企画財政課渡辺優輝氏
加茂市商工観光課　吉田課長
加茂市農林課　大竹課長
加茂市環境課　石附課長
生徒は居住地あるいは選択した自治体の職員の講義を受講

No. 3　６月１５日（水）12:40～16:40

内容　ＳＤＧsについて

講師の太田氏が取り組んでいる研究がＳＤＧｓがどのように関わり、どのような社会的意義を持つか、という講義の後、グループに分かれＳＤＧｓから選択したテーマについてグループディスカッション・発表、を行い、ＳＤＧｓへの理解を深めた。

講師　太田朋子 氏(長岡技術科学大学)　※オンラインによる実施

No. 4　７月８日（金）12:40～15:45

内容　１・２年生を対象に例年実施している三条高校ＯＢを講師とした分野別の講義を開催した。本校ＯＢ講師に加えて県内大学からの講師を含め14分野の講義を行った。２年生は班の探究テーマについて、設定理由や探究方法などを発表し、講師から助言をいただいた。その後、講師による講義を行い、生徒は感想レポートを記入した。

講師一覧　※三条高校ＯＢ（敬称略）

No	区分	講師氏名	勤務先など
1	理学	田巻優子	国土交通省気象庁
2	工学	居藤誠	大手 IT 企業
3	工学	牧口実	(株)トヨタ自動車
4	医療保健	金井福栄	医院開業
5	生物農学	高橋伸一	農業経営
6	人文科学	香山敬三	テレビ朝日
7	社会科学	星野光司	(株)ほしゆう
8	社会科学	波潟郁代	JTB 総合研究所
9	社会科学	鈴木力	燕市長
10	社会科学	熊倉正人	熊倉シャーリング（有）
11	社会科学	田澤陽介	近藤まこと事務所
12	社会科学	前山直人	三条市役所
13	教育	佐野明義	元三条高校教頭
14	芸術	中村暢子	書道作家

生徒の感想

▸先生に出会えてよかったです!!本当に良いお話をきくことができました。これからの人生の参考にしたいと思います。今、三条高校で授業を受け、志望校に向けて一生懸命勉強できていることは凄く恵まれていて、決して当たり前ではないことをしみじみと感じました。

▸自分の生まれた地域に力を尽くすことはとてもやりがいがあることが、講師の話から伝わりました。また、これから先にＡＩが大半の仕事をすると聞いてびっくりしました。なので、人間にしかできない職業を私たちは選んでいかなければいけないと思いました。またこれからは、ただ知識だけが必要な仕事ではなく「情報編集力」のように「様々な立場でよく考え、異なる意見の人と話し合い自分の考えを深め、人に分かりやすく伝える」人間にしかできない力をつけていきたいと思いました。

▸自分たちがいつも普通に生活している中で、何の変哲もないこの平野が、先生が自信をもって言えるほどの肥沃さがあるのには驚いた。地理で、ここらへんが昔は湖だったり、海底だったりすることは知っていたがそれが原因で、歴史的に豊富な土地が得られていたのにはびっくりした。先生の話を聞いた後では、山と海との両方からの恵みが受けられる貴重さを学べたので、自分も守り人として、地域を思いやり、行動していきたい。先生の言葉「お互いに助け合って、この恵まれた自然を守り、私たちの財産である土地を守って欲しい」という言葉にとても納得した。

▸能力というのは潜在的に秘めたものやできることではなく自分で動ける力のことだというのが１番印象に残りました。社会では潜在的に能力がある人よりもあいさつ、返事や礼儀ができる人のほうが注目されるというお話を聞いて、人間性を大切にしようと思いました。もちろん成功や勝利もいいけど自分の人生なので自分の納得や満足を忘れないようにしようと思いまいした。

No. 5　９月２８日（水）12：40～15：45

内容　「データにみる新潟県」

新潟県に関わるデータを活用して、統計の役割や意義、データの読み取りや活用手法等についてわかりやすく、ワークを含めた講義を行った。探究活動ではデータの収集と分析を行っている段階であり、生徒にとって実践的な内容となった。

講師　太田雄介 氏(新潟県統計課)

生徒の感想

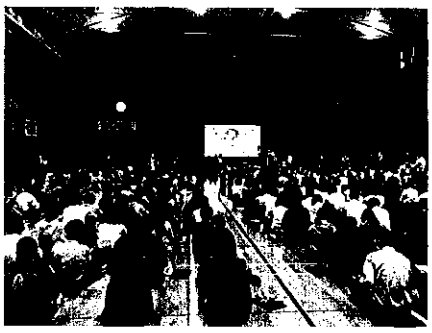
▸統計をとることで、その国や地域の情報を知ることができて、それが政策や企業の方針など、様々なことに活かされていることがわかりました。データをとることで予測できることもたくさんあるので上手に活かすことができたらいいなと思いました。統計って大切なものなんだと改めて感じさせられました。こんな統計もあるのかと思わせられたものもたくさんあったので、探究のときに活かせられたらいいなと思います。このような情報を利用することで信頼度も上がると思うので利用していきたいと思います。

▸私は「統計は答えがあるわけではなく、答えを探すための道を見つけるものだ」ということを学びました。具体的な数字が多く読み取れることもありますが、データから読み取れることは決まっていて、その先は推測でしかないという言葉を聞き、その推測をいかに現実味を帯びたものとできるかで統計を使いこなせるか、に関わってくるんだと気付きました。またＰＰＤＡＣサイクルという考え方を知り、難しいことをやっているようですが、一つ一つステップを踏むことで問題解決に近づいていくことができると学びました。何気ない気づきが解決につながるかもしれないと知りました。

▸今まではグラフを見て「多いな」「少ないな」となんとなくでしか見ていなかったが、今回の講義を受けて、そのグラフの差からどんなことが考えられるか、いくつかのグラフを関連づけて、これを増やせばこっちも改善される、といったことを見つけることができることがわかった。その統計を出しているところはどこか、何年おきかなど細かいところまで見て、自分が必要としている正確な情報を集める力が必要になることがわかった。

No. 6　１０月６日（木）13:45～16:30

内容　「未来の地球のためにできること」

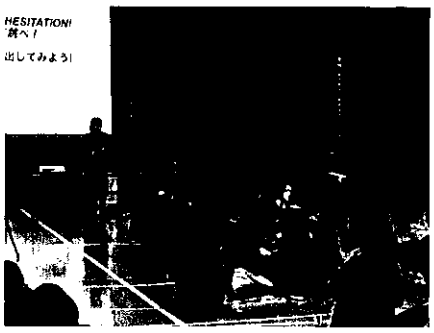


前半は、国境なき医師団の活動の紹介とともに、紛争地域の現状をグループワークやグループディスカッションを交えた講義が行われた。後半は「私の活動からみなさんに伝えたいこと」と題した講演が行われた。講演終了後、希望生徒と講師による座談会を行い、活発な意見交換が行われた。

講師　鈴木美奈 氏(国境なき医師団／産婦人科医)

No. 7　１１月９日（水）13:45～16:40

内容　「見る前に跳べ！Learning by Doingで切り拓く未来とは？」



探究活動に限らず、学習活動全般について、「主体性を育むこと」が課題であり、自分自身が行動するイメージをもつ、「やってみよう」「やろう」という生徒のモチベーション、エネルギーを喚起することを目的に、起業して社会の第一線で挑戦的な活動をしている企業人からの講演を行った。

講師　菊地恵理子 氏(タイガーモブ株式会社)

生徒の感想

- 行動することがどれほど大切か学びました。今まで「まだ学生だから」「全然できないでおわる」など将来したいことについて、大学に入ってから学ぼうと思っていました。専門的なことはまだ学べないと決めつけていました。しかし、菊地さんのお話を聞いて、今から始めてみたらいいじゃん!!という気持ちになりました。これからどんどん学んでいこうと思います。また、もっと多くの文化を知りたいという好奇心をこの講義で得ました。菊地さんが多くの国に行って様々なことを経験したように、私も海外に行って学びを得たいと思いました。
- 自分のモットーを再確認することが、自分の将来取り組みたいことへつながることに驚いた。また、講師の菊地さんが「常識外れはおもしろい」という言葉から、私はいつも変化を待つ側だから、変化を起こす側に回ることが自分自身を変える最良の手段だと思った。最後のまとめで話していた観点の中で、例えば「カオスを愛する」ということは、変化を怖がらずに逆に楽しむということで、嫌な経験であっても自分を成長させる高い壁だと思って乗り越えることが一歩前進するための要素だと思った。また「越境」を頭の隅に常に入れて、自分の力で枠組みを超えていきたいと思った。
- 今回の講演で一番印象に残った言葉は「人間は思考の範囲内にある」「人は思ったとおりになる」です。自分で「もうダメ」とか思っていたら、それ以上いけることはないので、菊地さんのように常にその先の目標を考えて行動することが大切なんだと思いました。また「この世界に役割のないものはない」という言葉がとてもいいなと思いました。存在するすべてのものに大事な役割があって、それをしっかり責任をもたないといけないと思いました。行動するのはほうが、その後の人生が変わるなら「めんどくさい」とか「明日から」とか先送りしないように、これからThinkをActionに変えていきたいなと思いました。
- 私は「起業」のおもしろさに気付くことができました。今まで起業はとても大変で難しく、自分にはできないことだと思っていました。ですが、起業すると自分のやりたいことをかなえる場所ができたり、新しい人と出会えたり、海外の人ともつながれたり楽しいことがたくさんあると知りました。私は教育関連の仕事をしたいと思っています。留学生に教えたり、自ら海外に行って仕事をし、たくさんの人と国境を越えた絆をつくれると思うと、とてもすてきなことだと思います。私も多くの人とグローバルな関係をつくりたいです。

イ　課題探究

ＷＷＬ拠点校の指定を受けて学校設定科目「グローカル探究」及び２年生は「ＳＤＧｓ世界史」の一部の授業時間を活用・援用して探究活動を行った。

グローカル探究は、クラス担任、副任が担当し、１年生は２人の副任を割りあてて3人のチームティーチングの体制をとった。「ＳＤＧｓ世界史」においては、探究活動を行う際には授業担当者に加えてクラス担任が参加した。探究活動の指導を複数担当にしたのは、班別の活動に対して分担することで、担当職員の負荷を軽減すること、複数の担当者の異なる視点を設けることで探究活動において多角的な見方の提示を担保すること、の２点を考慮しての措置である。

旧課程の２年生と新課程の１年生の課題探究の状況が異なるので、学年別に記すこととする。

＜２学年＞

１０月の発表会を目標に、ＳＤＧs世界史の一部に時間割外の13時間を加えて課題探究の枠として設定し、３～４人の班全66班により探究活動を行った。

２年生は、「地場産業」「農業・食料」「環境」を基本テーマとし、地域課題の発見と解決に取り組んだ。現在の地域課題の発見と解決には、国際情勢や国際関係の背景理解が不可欠との立場から、１年時に取り組んだＳＤＧsの理解深化と国際関係の背景理解をＳＤＧs世界史の枠では探究活動と並行して行うこととした。

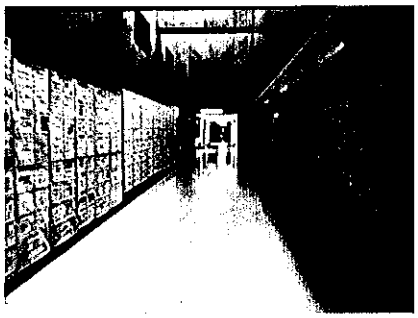
以下が今年度２年生の取り組んだ探究テーマの一覧である。

通番	２年探究テーマ
1	米の消費量を上げよう！ ～米粉を使ったおかしの通販～
2	人間と野生動物の共生 ～熊との共存を目指して～
3	IT 等の技術を利用した農業の効率化
4	米の新しい使い方 ～三条米のイメージアップ～
5	米農家の個人事業の新規参入者を増やす
6	除雪されるだけの雪を有効に活用するのは？
7	餅で食糧自給率向上
8	三条市のごみの排出量を減らす最強の方法
9	トキが住みやすい環境をつくるには ～耕作放棄地を利用して～
10	移住者に向けた農業体験で農地を持続的に利用する
11	新潟県の CO2 排気量を減らす為には
12	燕三条の工場の知名度と利益向上のために
13	ボランティア活動で地域活性化 ～若者の地域貢献率 up！～
14	三条市内に子供達が遊べる場所を増やすには
15	若者が農業に就きやすくするには？
16	下田村活性化計画　～打倒下田～
17	魅力いっぱい田上町 ～知名度 up を目指して～
18	環境に優しい生活スタイル

19	無洗米を使うメリットと活用方法
20	麩を広めて新潟県の産業を活性化させよう！
21	三条市を活発な市民交流のある町にしたい
22	新潟県で段ボールコンポストを使おう！
23	AIT(Agriculture in Tsubame) ～燕市の農業発展のために～
24	三条市の地産地消を推進しよう
25	三条まるだし ～観光客を呼び込もう！～
26	三条市における新しい農業の提案
27	他県からも来てもらえるサービスエリアを三条市に！
28	一人暮らしのお米の普及 ～県内の米の消費量増加へ～
29	栄養の偏り改善への道 with コロナ ～一汁三菜で適正体重を目指す～
30	燕三条の背脂ラーメンを有名にする
31	男女平等に育児に参加するには ～Countermeasures to the talling brithrate～
32	同性恋愛でもいいじゃない!！
33	米だけじゃない!！!新潟県の農産物 ～枝豆販売の現状と可能性～
34	燕三条の魅力を伝え，住み続けてもらう
35	燕三条地域で安心して仕事と子育てができる環境を作るためには？
36	県外の若い人に燕三条の洋食器を広めるには？
37	クマと共存するには
38	地元を知ろう ～これから探究活動をする中学生へ～
39	新潟の海産物の PR 方法の提案
40	燕三条の金属産業の衰退を食い止めるためには？
41	三条市に住んでいる高齢者の災害時の避難所での不満・不安を軽減するためには
42	認知症の方が過ごしやすい環境作り
43	工場の廃棄熱を使って枝豆農園を開こう！ ～冬だって美味しい枝豆諦めない～
44	熊からの被害を減らすには
45	三条市のバイオマス利活用
46	三条をデジタル教育先進地域にしよう
47	ゴミの分別における有効な方法は何か
48	ゼリー用スプーンを作ろう!! ～介護が必要な人，小さい子供に需要のあるスプーン～
49	家庭で子供のうちから米を身近に感じてもらい，米の消費量を上げよう
50	ごみを減らすには

51	新潟県のお米の消費量を上げるには
52	安心して暮らせる三条市にするには ～災害時に役立つハザードマップを～
53	冬季うつを減らすために
54	三条市の食べ物の名産品の知名度を上げるためには
55	想像力を養うには？想像力を向上させて，特殊詐欺などの犯罪被害から身を守ろう
56	三条市の就農者を増やすには　～スマート農業の導入～
57	新潟県の高校生の自殺を防ぐには
58	ベジタブルバンク　～フードバンクの野菜バージョンの提案～
59	下田の田畑を猿から守ろう！ ～猿の被害ゼロの畑～
60	金属加工の現状を高校生に伝える効果的な方法は何か
61	三条市のふるさと納税を用いて地場産業を振興するには ～新たなふるさと納税制度の提案～
62	コクワを使った下田地区 PR 作戦
63	三条市の耕作放棄地を減らすためには ～オランダ式農業を目指して～
64	三条市のルレクチェ農家を増やすには
65	新潟県の人口減少をとめるには
66	使われず捨てられてしまう食材の大変身計画!!

生徒が生活する地域の課題として何があり、その解決のためにどのような施策が行われているかを知るために、周辺自治体職員からＳＤＧｓとの関わりを含めて自治体の取り組みについて講義の機会を設定した。（WWＬ特講の項を参照）



９月１０日（土）各班の探究テーマについては、概要をまとめたポスターを作成し、一般公開される九月祭（文化祭の名称）時に、体育館通路の壁に貼りだし、来校者に見ていただいた。

１０月５日（水）分野別発表会を行い、全６６班が会場に分かれて発表と質疑応答、発表に対する評価を行った。

１０月１２日（水）「地場産業」「農業・食料」「環境」の基本テーマの分野から選抜された８班の発表と質疑応答、担当教員からの講評を学年発表会で行った。

１２月２３日（金）「三高生から地域への提案」をテーマに、地域の自治体、事業所の職員の参加を得て発表会を行った。

発表テーマは以下のとおり。

１番　コクワを使った下田地区ＰＲ作戦
２番　燕三条の背脂ラーメンを有名にする
３番　米だけじゃない！新潟県の農産物～枝豆販売現状と可能性～
４番　米の消費量を上げよう！～米粉を使ったお菓子の通販～
５番　ボランティア活動で地域活性化～若者の地域貢献率UP!～

６番　県外の若い人に燕三条の洋食器を広めるには？
７番　餅で食糧自給率向上
８番　他県からも来てもらえるサービスエリアを三条市に！

地域からの参加は以下のとおり。
三条市政策推進課　田村　諭 氏
三条市商工会議所　中川 恵一郎 氏
燕市商工会議所　　高野 雅哉 氏
JA全農にいがた　　高橋 康生 氏

全８班の発表と質疑応答終了後後、Google Formsを使用し、地域への提言として生徒投票を行い、「他県からも来てもらえるサービスエリアを三条市に！」が選出された。その後、グループ単位で選出テーマの改善点について話し合い、いくつかのグループから結果の発表を行った。

２月８日（水）　今年度の探究活動をＡ４版２枚以内でまとめて各班が提出した。
２月２１日（水）　探究活動の振り返りと自己評価を行った。
３月２２日（水）　１・２年生の全探究班（１年７１、２年６６、計１３７）が参加し、ポスターセッションを行った。

＜１学年＞

１年生は、「グローカル探究」を２単位とし、１単位を授業時間割内、１単位を時間割外で展開した。探究活動の指導はクラス担任１人と副任２人の３人で行った。

活動の年次計画は以下のとおり。

時期	学習内容
４月 ５月 ６月 考査 最終日	探究の基礎と調べ学習（個人） 調べ学習の基礎編 ⓪先輩たちの取り組みを知る　２年生と３年生の探究発表　４/８ ①探究学習とは　　（４/１１　オリテ　田中先生より講演） ②ＷＷＬ探究とは（４/１２　オリテ　中川先生より講話） ③探究と調べの違い ④ＳＤＧｓのゴールとターゲットについて（ユニセフの動画視聴） 朝日新聞特別号を読みながら、興味のあった記事やキーワードを抜き出す ⑤下調べの仕方　　図書館オリエンテーション　図書の調べ方 ⑥下調べの仕方　　インターネット　ジャパンナレッジ School の調べ方 ⑦問題を意識する（身近なところに問題はないか考える） ⑧テーマの決め方（マンダラート　　マッピング等） ⑨情報を調べながら並行して ⑨－１情報の記録の仕方（情報カード　　出典・参考文献の書き方　　著作権） ⑨－２情報の分析の仕方（思考ツールの活用） ⑩分析したことの整理の仕方　　アウトプットの仕方 ⑪実際に自分の調べ学習のテーマを決める 自分で調べ学習 ⑫実際に情報（図書　ジャパンナレッジ School Web サイト）を探す。 ⑬スライドの作り方 ⑭スライドの作成 ⑮クラス別でスライド発表会　６/２９ ⑯振り返り
７月	探究の基礎と探究学習（グループ） グループで探究学習 ①テーマごとにクラスで３人か４人のグループを作る

	②グループでテーマ、探究したいことを決める。 ③（YouTube「島根大学そもそも」でグループ探究のやり方のイメージ）
８月	・興味のある問題か。 ・まだ未決の問題か。 ・自分たちで明らかにできそうな問題か。オープン school で何人か発表
９月	・仮説がたてられるか。 ④グループで仮説を立てる。 ⑤周辺知識をまとめる ９/２８ＷＷＬ特講
１０月	１０/６ＷＷＬ特講 ⑥情報の収集 フィールドワーク　１０/２６　企業見学
１１月	１１/９　ＷＷＬ特講 ⑦調査、実験、インタビュー ⑧わかったことをグループで整理、まとめ、論を構成する。 ⑨分野別中間発表　１１/３０
１２月	⑩発表スライドに手を加える。調査の追加。 ⑪発表原稿をつくる。
１月	⑫発表練習 ⑬追加調査　練り直し ⑭スライド・原稿の直し　並行して概要冊子の原稿作成 ⑮分野別発表会　１/１８
２月	⑯探究のまとめ　個人 ⑰学年発表会（⑮の発表を受けて）　２/８
３月 まとめ	⑱１年２年合同ポスターセッション（全グループ）　３/２２ スライド、ポスターだけでなく、探究の過程を文章でまとめる。 １年Ｇ探記録集を作成する。

４月から６月は、ＳＤＧｓから選択した事項について各自の調べ学習を行い、７月からは３～４人の班を編成（全71班）し、探究活動を行った。

探究テーマの一覧は以下のとおり。

通番	１年探究テーマ
1	新潟県の貧困家庭に私たちができることは何か
2	母親の育児負担を減らすには
3	県央地域の情報手段の世代間格差を軽減するには
4	２０代の献血者を増加させるには
5	男女の雇用格差を埋めるにはどうすればよいか
6	新潟県のフェアトレードの認知率を上げるには
7	おつとめ品が食品ロスを減らすことに与える影響
8	燕市の農業従事者を増やすにはどうしたら良いか
9	環境ラベルつきの商品の購入を増やすには
10	新潟県の米の需要を上げるためには
11	ペットボトルリサイクの環境負荷を減らすには
12	ゴミの排出量を減らすには

13	中学生に気候変動の重大さを理解させるには
14	ポイ捨てを減らすにはどうしたらよいか
15	県央地域の観光に興味を持ってもらうためには
16	視覚障害者のために高校生ができること
17	三条でブランド米を売り出すには
18	三条中央商店街を活性化させるためには
19	廃棄されている野菜・果物を減らすためには
20	個包装で食品ロスは減らせるか
21	人を熊から守るには？
22	マイボトル自販機ではペットボトルを減らせるか
23	朱鷺の個体数回復はどうしたら達成できるか
24	新潟県に移住者を増やすにはどうしたらよいか
25	パートナーシップ制度を新潟県で普及させるには
26	沖縄に住む貧困世帯を助けるためには
27	災害が起きたときに有効な避難訓練とは
28	大豆ミートの使用量を増やすには
29	新潟県にもっと高齢者の観光客をふやすには
30	ベーシックインカム導入は可能か
31	小学校低学年のいじめを減らすには
32	コロナ流行以降の食品ロスはなぜ減っているのか
33	環境問題解決に有効なバイオプラスチックは
34	海洋ゴミを減らすために何ができるか
35	地方活性化のための観光の役割
36	エチオピアの子どもたちの教育充実のためには
37	空き家を利用して地域を活性化させるには？
38	子どもの貧困支援はなぜ社会に浸透しないのか
39	魚のプラスチック食を防ぐにはどうしたらよいか
40	インクルーシブ教育を推進に必要なことは何か
41	様々な視点、方法から見る新潟のクリーン節電
42	アフリカの水不足を解決するには
43	山間部の農業を自然災害から守るには
44	なぜ日本で同性婚は認められないのか
45	海洋プラスチックゴミを減らす為に何ができるか

46	なぜ制服の自由化、選択制が進んでいないのか
47	アライグマは新潟県の農家にとって悪なのか
48	生分解生プラスチックは環境にとってよいのか
49	海岸のプラゴミをどうしたら有効に活用できるか
50	紙パックの回収ボックスの普及率のためには
51	毎日オープンしている子ども食堂を増やすには
52	レジ袋のリサイクルを増やすためには
53	三条市を住み続けられる町にするには
54	三条市はどんな姉妹都市交流ができるだろうか
55	食品ロスを削減し循環させる方法はあるか
56	三条市小学校の少子化をどのように解決するか
57	県民の９割を同性婚賛成にするには
58	子供は何が原因で貧困に陥っているのか
59	ペットボトルのリサイクル率を上げる方法
60	課題解決に向けた行動を促す効果的な呼びかけは
61	世代を超えた貧困を防ぐためには
62	インドから貧困が無くならないのはなぜか
63	トイレの衛生環境を改善するには
64	女性が働きやすい社会にするためには
65	川から海にプラスチック流出を防ぐためには
66	新潟県の海洋ゴミ問題の改善策の提案
67	シエラレオネの児童労働減らすために
68	日本の児童虐待を減らすためには
69	新潟県のヤングケアラーを減らすために
70	教員の働き方改革を進めるにはどうしたらよいか
71	三条燕の中国に負けないブランディング

９月１０日（土）　各班の探究テーマについては、概要をまとめたポスターを作成し、九月祭（文化祭）時に、体育館通路にて公開し、発表した。

１１月３０日（水）分野別中間発表会を行った。
全71班が６会場に分かれて各班７分の発表と質疑応答を行った。
各班発表後に、生徒が発表に対する評価を行った。

1月１８日（水）　分野別発表会
全71班が６会場に分かれて、各班７分の発表と質疑応答を行いました。
新潟大学創生学部の先生、学生６人からコメンテーターとして参加していただき、担当会場において各発表に対して講評・助言をいただいた。
コメンテーター　新潟大学創生学部　田中一裕 教授、熊野英和 教授、学

生　４名

２月８日（水）　学年発表会

各分野から選抜された６班の発表と質疑応答、担当職員からの講評を行った。

発表テーマは以下のとおり。

１番　さまざまな視点、様々な方法から見る『新潟のクリーン発電』

２番　米の需要を上げるためには～食用・非食用からのアプローチから

３番　新潟県県央地域のヤングケアラーの問題を減らすためにできること

４番　問題解決に向けた行動を促すための効果的な呼びかけは？

５番　大豆ミートの使用量を増やすには」

６番　小学校低学年のいじめを減らすには

２月　今年度の探究活動について、各自がＡ４版１枚にまとめ提出した。

３月１日（水）　探究活動の振り返りを行う。

３月２２日（水）　１・２年生の全探究班（１年７１、２年６６、計１３７）が参加し、ポスターセッションを行った。

ウ　グローカルフィールドワーク

４月１９日（金）　２年生が校外研修のプログラムの１コマとして、三条市内の４事業所(SUWADAオープンファクトリー、マルト長谷川工作所、マルナオ オープンファクトリー 、Snow Peakヘッドクォーターズ)のうち生徒が選択した２箇所の見学をフィールドワークとして行った。

７月２７日（金）～８月１２日（金）２年生の各班で必要に応じて、自治体や事業所を対象に訪問調査を行った。

例）アンレミュー駅南店、三条市役所、サンファーム三条、フードバンク三条

１０月２６日（水）１年生がクラスごとにバスで２か所の企業を訪問した。

訪問事業所

藤次郎株式会社、株式会社大泉物産、株式会社三條機械製作所、サクライ、遠藤工業株式会社、マルナオ株式会社、株式会社諏訪田製作所、包丁工房タダフサ、株式会社山忠　靴下工場、有限会社茂野タンス店、三条特殊鋳工所

１年生、２年生とも探究活動の調査の一環として、関係機関や事業所と連絡を取り、電話やメールによるヒアリング、アンケート、訪問を必要に応じて行った。各班単位のフィールドワークのスケジュールについては各班に任せたが、電話、メールについては探究活動時間内もみられ、訪問については課外時間で行われた。事業所等が重複することによる先方業務への支障を避けるために、生徒に事前の意向調査を行い、担当職員で調整を行った。オンラインによる聞き取り調査を行った。

外部との連絡手段として、探究活動用のアカウントを作成し、使用することとした。

依頼先の事業等は概ね好意的、協力的であった。先方も高校生の探究活動に関心が高いようで、探究成果の報告や共有、還元等について今後の検討課題と位置づけたい。

エ　探究活動の評価について

１、２年生とも分野別発表会の際に、以下のルーブリックを基に各グループの発表に対し生徒が評価を行った。

2学年　分野別発表に対する評価ルーブリック

評価		4	3	2	1
評価項目		たいへんよくできていて、十分に満足できる	よくできていて満足できる	改善点がいくつか認められ、もうひと頑張りである。	できあがりとして不充分で、物足りない
発表内容	設定理由・目的	社会や世界の事象に対して強い問題意識と、その解決に向けた強い意志が明確に表現されている。	社会や世界の事象に対する問題意識と、その解決に向けた貢献した意志がわかる。	社会や世界の事象に対する問題意識や、その解決に向けた意志が不明瞭。	社会との関わりや社会への貢献について説明されていない。
	「リサーチクエスチョン／明らかにしたい問い」	明確に問題意識が理解できる具体的かつ絞り込まれた問いとなっている。	問題意識と何を明らかに(解決)したいか、がわかる問いとなっている。	抽象的、一般論的な表現のため、漠然とした問いとなっている。	テーマとの関連が不明瞭で、一般論的、抽象的すぎて、問いとして適当とはいえない。
	仮説・提案	「明らかにしたい問い」の解答として整合性がある。曖昧な表現がなく具体的で、定義が明確な語句により説明されているので十分な検証が期待できる。	「明らかにしたい問い」の解答として整合性がある。一般論的、抽象的表現であるが、検証が期待される。	「明らかにしたい問い」の解答として、整合性に欠けたり検証に困難さがある。	仮説(提案)の形態になっておらず、探究活動での検証は困難と考えられる。
	収集・整理分析	様々な情報が十分に収集され、複数の視点から整理・分析を緻密に行っている。	様々な情報が十分に収集され、複数の視点から整理・分析を行っている。	情報量に不足感が否めず、分析が少なく、既知の枠をでていない。	収集した情報を既知の枠内でまとめたにすぎず、分析したとは言えない。
	考察・結論	緻密な考察と明解な論理構成により結論が導かれている。	論理的な構成により結論が導かれている。	結論への道筋に、不明瞭さや論理的な飛躍が認められる。	主観的な主張が目立ち、論証・論拠が不充分のまま結論が導かれている。

		展望や社会参画等	具体性や現実性があり、すぐにでも実行できる。今後の発展が大いに期待できる。	実行するのは具体性・現実味にかけるが、改善による実行が期待できる。	具体性や現実性に欠け、実行や発展を見込みがたい。	既知の課題等の強調にすぎず、探究の成果がわからない。
プレゼンテーション	スライド	スライド(情報、図式のバランス)	1枚の情報量が適切で、効果的に図式化がされていて大変わかりやすいスライドである。	1枚の情報量が適切で、図式も活用されて、わかりやすい。	1枚の情報量が多く(少なく)、図式化の効果が薄く、わかりにくさがあった。	文字量が圧倒的に多く(少なく)、原稿そのままのスライドが中心で、工夫が見えない。
		デザイン	文字の大きさ、字体、配色が秀逸で、一枚一枚が見やすく全体として統一感があるデザインとなっている。	文字の大きさ、字体、配色が適切で、一枚一枚が見やすいデザインとなっている。	文字の大きさ、字体、配色にばらつきが認められる。	文字の大きさ、字体や配色等がスライドごとにばらばらで統一感がない
		スライドの構成(全体)	説明内容とスライドがリンクしていて、内容や枚数が適切なスライドにより構成されている。	内容や枚数が適切なスライドにより構成されている。	説明内容とスライドのズレや不要と思われるスライドがあり、アンバランスな構成になっている。	説明内容とスライドのズレ、スライドの説明の長さばらつき、不要と思われるスライドがあり、枚数も適当とはいえない。
	説明	説明状況	わかりやすい表現を使用し、概要から詳細へ、全体から部分へと、簡潔で論理的な説明がグループとして行われていた。	概要から詳細へ、全体から部分へと、論理的な説明がグループとして行われていた。	わかりにくい表現があり、論旨にもやや無理があった。個々の説明にもばらつきがあった。	難解な表現と論理展開も無理があり、わかりくくい説明になっていた。
		発表者として聴衆に対する態度	個々の発表者が総じて原稿を見ることなく、聴衆全体を見渡し、聴衆の反応を確かめていた。明るい表情としっかりした姿勢により好感度が高かった。	個々の発表者が原稿を確認程度に見るにとどめて、聴衆とのアイコンタクトにつとめていた。表情に緊張が認められるがしっかりした姿勢で説明され、好印象であった。	個々の発表者が原稿に頼っていて、聴衆全体を見渡していたとはいえない。ややふらふらした姿勢が見られ、丁寧さに欠ける印象になった。	発表者は原稿の棒読みで、顔が上がらず聴衆を見渡すことがない。ふらふらした姿勢もあってぞんざいな印象であった。
		聴衆に伝えようとする力	個々の説明が適切な声の大きさとテンポで行われ、身ぶり手ぶりもあって自信を持って聴衆に伝えようとする強い意志が伝わった。	個々の説明が適切な声の大きさとテンポで行われ、聴衆に伝えようとする姿勢が伝わった。	個々の説明の声の大きさやテンポが不揃いで、聴衆に伝えようとする姿勢が弱かった。	探究の結果を発表するのみで、個々の説明の声の大きさやテンポが不揃いで、伝えよう、理解してもらおうという意志を感じることが困難だった。

質疑・応答	質疑の有無と内容	オープンクエスチョン(イエス/ノーで答えられない質問)による内容や見解についての質疑があり、補足説明や展望や意見があった。	内容や用語の確認、クローズドクエスチョン(イエス/ノーによる解答)等の単純な応答のみだった。	質疑応答がなかった。	
	応答	的確・簡潔に回答、説明していた。	スムーズに、回答していた。	戸惑いがみられ、的確な回答になっていなかった。	回答できなかった。

分野別発表における生徒評価結果（平均）

平均	内容AVG	プレゼンAVG	1.探究テーマの設定理由・目的	2.「リサーチクエスチョン／明らかにしたい問い」	3.仮説・提案	4.収集・整理・分析	5.考察・結論	6.展望や社会参画等	7.スライド(情報、図式のバランス)	8.スライドのデザイン	9.スライドの構成(全体)	10.説明状況	11.発表者として聴衆に対する態度	12.聴衆に伝えようとする力
3.4	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4	3.5	3.3	3.3	3.4	3.5	3.6	3.4	3.1	3.2

１年生分野別発表会の評価ルーブリック

1	テーマ、リサーチクエスチョンは妥当なものか。	1大変よくできている	2よくできている	3もうひとがんばり	4不十分
観点	思考判断	オリジナリティがあり問題意識が具体的で絞りこまれている	問題意識が明確である	問題意識があいまい	問題意識が不明瞭
2	仮説は適切か	1大変よくできている	2よくできている	3もうひとがんばり	4不十分
観点	思考判断	具体的で検証が期待できる	一般的だが検証が期待できる	検証が難しい	仮説の形になっていない
3	十分な資料にあたり、参考にしているか。	1大変よくできている	2よくできている	3もうひとがんばり	4不十分
観点	知識技能	ネットも書籍も十分に調べ参考にしている。	ネットあるいは書籍の情報に当たり参考にしている。	情報量が不足している。	全く資料を調べていない。
4	資料、情報の分析は発表に生かされているか。	1大変よくでいている	2よくできている	3もうひとがんばり	4不十分

観点	知識技能	調べたことがスライドや発表の中に活かされている。	調べたことがスライドや発表に出てくる。	調べたことがスライドや発表に活かされていない。	資料や情報が全く使われていない。
5	論理的に考察されているか。	1大変よくでいている	2よくできている	3もうひとがんばり	4不十分
観点	思考判断	明快な論理構成で考察が進められている。	論理的に結論が導かれている。	結論への道筋に不明確さや飛躍がある。	論理的ない。
6	提案に具体性や実効性があるか。	1大変よくでいている	2よくできている	3もうひとがんばり	4不十分
観点	思考判断	独創的な提案で具体性や実効性がある。	提案に実効性がある。	提案に実効性が感じられない。	提案されていない。
7	スライドの構成、レイアウトは見やすいか。	1大変よくでいている	2よくできている	3もうひとがんばり	4不十分
観点	意欲関心態度	工夫されていて見やすい。	見ていて理解できる。	やや見にくい。	見にくい。
8	説明がわかりやすいか。	1大変よくでいている	2よくできている	3もうひとがんばり	4不十分
観点	意欲関心態度	説明が大変理解しやすい。	説明は理解できる。	説明がやや理解しにくい。	説明を聞いても理解できない。
9	発表者間の協力と役割分担がうまくいっているか。	1大変よくでいている	2よくできている	3もうひとがんばり	4不十分
観点	意欲関心態度	発表の様子から役割分担と協力の様子がわかる。	役割分担ができている。	一部の生徒が発表している。	発表に協力が感じられない。
10	質疑応答の対応が適切か。	1大変よくでいている	2よくできている	3もうひとがんばり	4不十分
		聞かれていることに的確に答えている。	聞かれていることに答えている。	聞かれていることに答えていない。	答えられなかった。

分野別発表会での生徒の自己評価結果（平均）

1テーマリサーチクエスチョン	2仮説	3資料	4分析	5論理的巧拙	6提案	7スライドレイアウト	8説明	9発表の仕方	10質疑応答
4.7	4.6	4.6	4.6	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7	4.6

※最高点５点、最低点１点として５点満点に換算した結果。

探究活動の振り返りとして生徒に以下の９項目と総合評価について、最高値を５，最低値を１とする５段階で自己評価した。

評価の定義については、下記のとおりである。前年度に用いた「指導」という表現が生徒の自己評価には適当ではない、として波線部「助言したり教えたり」と具体的な表現に変更した。

＜今年度の評価についての説明文＞

５　自分で実行することはもちろん、十分に他者に助言したり教えたりすることができる。
４　自分で実行することはもちろん、他者に助言したり教えたりすることはできる。
３　自分で実行することができる。
２　自分で実行することにやや不安がある、自信が持ちきれない。
１　自分一人では実行できない、自信がない。

＜昨年度の評価についての説明文＞

５　自分で実行することはもちろん、他者に十分に指導することができる。
４　自分で実行することはもちろん、他者に指導することができる。
３　自分で実行できる。
２　自分で実行することにやや不安がある。
１　１人での実行に自信がない、できない。

評価項目についての説明は以下のとおり。

①情報収集力：情報を集めるために必要なソースや方法を選択して、各種ツールを駆使し効率よく必要な情報を収集することができる。
②情報分析力：集めた情報をもとに、必要な事象を抽出することができる。
③課題発見力：事象間の因果関係に基づいて結論を導くことができる。あるいは課題等を指摘、発見できる。
④他者と協働する力：収集・分析等探究に関わる活動を、他者と協力し行うことができる。
⑤他者との対話力：結論や課題等を導くために、自分の意見を主張するとともに、他者の意見を尊重した議論、問答ができる。
⑥他者への質問力：他者の探究活動を理解するとともに、その発展のために意見や疑問点を積極的に発言することができる。また、そのことが自らの探究に対する取り組みの向上につながることを理解している。
⑦資料作成力：自分の考えを文章や図を使用して論理的に表現し、明解な資料として作成できる。
⑧発表する力：自分の考えを、マナー順守で適切なツールを用い、身体表現（発声、身ぶり等）を交えて語り、他者に伝えることができる。
⑨主体的な取り組み：明確な目的意識を持って、自らが意欲的、積極的に取り組んでいる。グループ内の探究活動を率先して、グループの活動をリード、活性化できる。

２年生の自己評価の結果をまとめたのが下記の＜表Ａ＞である。

＜表Ａ＞

評価事項	２年 （平均値）	参考 ２年生が１年末（平均値）
①情報収集力	３．８	４．１
②情報分析力	３．９	４．０
③課題発見力	３．６	３．７
④他者と協働する力	４．０	４．３
⑤他者との対話力	３．８	４．１
⑥他者への質問力	３．５	３．４
⑦資料作成力	３．８	３．９
⑧発表する力	３．５	３．６
⑨主体的な取り組み	３．６	４．０
総合評価	４．０	３．６

２年生と共通の項目と基準で、１年生も探究活動について以下の９項目と総合評価について、最高値を５，最低値を１とする５段階で自己評価した。その結果をまとめたのが＜表Ｂ＞である。

＜表Ｂ＞

評価事項	１年(平均値)
①情報収集力	3．9
②情報分析力	3．9
③課題発見力	3．7
④他者と協働する力	4．1
⑤他者との対話力	4．0
⑥他者への質問力	3．6
⑦資料作成力	3．8
⑧発表する力	3．7
⑨主体的な取り組み	3．8
総合評価	3．8

１年生、２年生とも「他者と協働する力」については高評価をしている。探究の基本的スキルについても手応えを感じているようである。しかし、質問や対話、発表については不十分さを感じている。探究活動に対する総合評価は、１年生、２年生とも評価をしていると捉えているが、生徒たちの自己評価が低い質問や発表というコミュニケーション力の中核をなす能力の向上について効果的なプログラムの開発を課題としたい。

②「ＳＤＧｓ世界史」

「世界史Ａ」の学習を基にしながら、近現代の地理的条件・政治経済等の中でＳＤＧｓや新潟の地域課題の解決に向けた能力・資質の向上を図るため、学校設定科目として２年次２単位設置した。授業は、世界史の担当職員１人（６クラス担当）と各クラス担任が担当し、１クラスに２人の担当者がつくチームティーチングの形式で行った。

当科目の授業を使った探究活動を計画したため、世界史Ａの内容を前年度までとは異なる配置・配分で行った。４～９月までは週２時間のうち１時間は地域課題の解決に関する探究活動を行い、もう１時間で世界史の内容を扱った。世界史Ａでは産業革命と資本主義社会の形成について学んだうえで、帝国主義、二つの世界大戦、冷戦、冷戦の終焉、グローバル化する世界について取り扱った。まず 20 世紀、現代の歴史を丁寧に学ぶことで、ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）がなぜ設定されたのか、その背景を理解し、ＳＤＧｓ達成に向けての多角的な視野を養うことを目指した。なお、10 月以降は古代から 19 世紀までの歴史を概観した。

【実施の成果】

- 世界史Ａの内容を取り扱う授業では毎回、歴史的事項がなぜ起き、どのようなことにつながっていったのかという発問をし、生徒が考察する時間を設けるようにした。生徒は教科書、資料集やタブレットを用いたインターネット検索で情報収集し、話し合いを行った。アンケートでも「今まで聞いたことのあった出来事が世界史の授業で背景や結果などを知ることができた。出来事と出来事がつながっていることに気付いた」などの記述が見られ、過去、現在、未来がつながりを持っていることや世界と日本とのつながりについて再確認する姿が見られた。
- 探究活動の時間だけでなく世界史の授業においてもグループ協議やペアでの話し合いを行う機会を繰り返し設けたため、次第に積極的な意見交換ができるようになった。幅広い視点で多面的に物事を考え、知識を組み合わせ、新たなアイディアを出していく様子が見られた。
- 歴史的事項がＳＤＧｓのどれと関連があるのか指摘してきた。短時間ではあったが継続して触れてきたため、歴史とＳＤＧｓを結びつけて考えることができたのではないかと思う。ＳＤＧｓの歴史的背景を知り理解を深めることで、世界的な課題を自分ごととして捉え、自分自身の生活や生き方に当てはめられるような考え方をもつことができる生徒が見られたことは成果といえる。探究活動においてもＳＤＧｓの視点で新潟の地域課題の解決策を考えようとする姿勢が見られた。

③「WWＬ情報」

課題を発見し、解決する力を養成する一環として、情報の収集・分析・発信する技術を習得させ、問題解決に向けた能力・資質の向上を図るために学校設定科目として１年次１単位（２年次１単位）を設置した。授業は、１年生のグローカル探究の担当者と探究の進捗について情報交換を行いながら、情報の担当職員２人(４クラス担当１人、２クラス担当１人)が担当した。

探究活動を念頭に、１学期は「情報Ｉ」の取り扱う事項について問題解決とモデル化の指導をして、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成の実習をした。２学期は、作成したプレゼンテーション資料を使って、発表の実習を２回実施し、相互評価を行った。

【実施の成果】

- 「WWＬ情報」の実践演習として、Ｗｅｂ検索による情報の収集、収集した情報をパワーポイントによりスライドを作成し、発表するなど早期に集中して実施した。そのため、プレゼンテーションの基本的な実施方法を体得させることができ、生徒は「グローカル探究」で実施するプレゼンテーションの準備、資料作成、発表がスムーズに実施でき、探究活動における問題意識の醸成、継続、高まり等に、より時間を割けるようになった。
- 外部講師を活用し、統計の基本と２年次に予定しているデータ分析への導入と位置づけた講義を実施した。（WWＬ特講の項参照）

④「WWＬ論理・表現Ｉ」

やり取りや発表などの話す活動、書く活動などの言語活動を通して、英語の知識や技能を習得させ、英語による思考力，判断力，表現力における資質・能力の育成を図るために、学校設定科目として１年次３単位として設置した。授業は英語の担当職員３人(６クラス)とＡＬＴ１人が担当し、各クラス週に１度、英語担当職員と、ＡＬＴチームティーチングを行った。

１学期は、ペアワークやプレゼンテーションなどを通じ、日常的な話題について情報や考え気持ちなどを話して伝え合ったり、必要な情報を得たりする力を育成することを目指した。

２学期は、「県内大学留学生ふれあい事業」を活用し、社会的な話題について情報を交換したり、意見を出し合ったりすることで、話題に関する理解をさらに深めること目指して行った。

３学期は、ペアワークやプレゼンテーション、また文章を書くことを通じ、相手にさらに分かりやすく伝える表現力を養うことを常に念頭に活動を行った。

グローカル探究と科目横断型で２日間、ＳＤＧｓについての学習、課題探究、スライド作成と発表を英語で行うプログラムを探究活動の班ベースで行った。

【実施の成果】

- 日常的な話題について、情報や考え気持ちなどを話して伝え合ったり、必要な情報を得たりする力を育成するために、ペアワークやプレゼンなどを行った。生徒は、活動を通じて、習得した英語の知識や技能を活用し、相手に情報や自分の意見、考えなどを伝えることの難しさを実感しつつも、相手の伝えたいことを理解しようと真摯に向き合う姿や、さらに学びたいという意欲が見られた。
- 「県内大学留学生ふれあい事業」を活用し、WWＬ探究で探究活動を行った内容を留学生に対してプレゼンテーションを行い、留学生からの質問やコメントを受け、それに対して適切な回答を行うという活動

を行った。自ら探究活動を行った内容を英語で伝えることに苦心しながらも、タブレット端末でスライドを作成し分かりやすいものにするよう工夫を行った。また、留学生から質問やコメントをもらうことで、自分の探究内容、およびプレゼンテーションの内容を振り返り、さらに理解を深めることができた。

- 自分の意見や考えを、聞き手、読み手を意識して伝えようとする活動を行った。理由や根拠を明確にし、写真やポスターやタブレット端末などの視覚的な補助を活用することで相手の注意をひき、さらに分かりやすく伝えることにも留意し、表現活動を行うことができた。
- 様々な表現活動を統合的に行うことで、英語知識、技能の習得に前向に取り組むことができた。また、その運用能力も高まっている様子が見られた。英語でコミュニケーションをとる難しさとともに、楽しさも感じている様子が伺え、さらなる英語学習への意欲向上という成果が得られた。

（２）連携校との取組等～ネットワーク構築に向けて～

①長野県上田高校主催高校生国際会議への参加

６月１１日（土）長野県のWWL拠点校長野県立上田高校が主催する信州WWLコンソーシアム高校生国際会議にオンラインで１年生１０人が参加。

②「世界津波の日」2022高校生サミットin新潟への参加

１０月１９日（水）～２０日（木）「復興を力に、経験と教訓を世界へ―雪国ではぐくまれた助け合いの精神から学ぶ防災―」をテーマに、新潟県・新潟県教育委員会・新潟市・新潟市教育委員会主催、国連防災機関（ＵＮＤＲＲ）共催で朱鷺メッセを会場に開催された標記サミットに１年生３人が参加した。

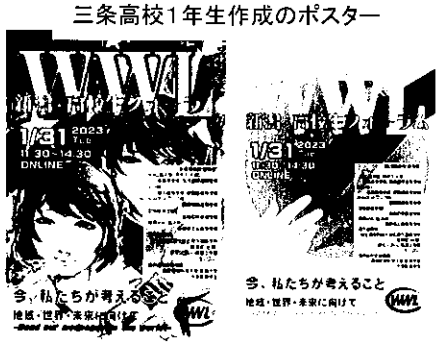
８月５日（金）、１０月１７日（月）～１８日（火）関連行事に参加

１０月１９日（水）～２０日（木）　開会式、総会、分科会、交流会、閉会式に参加

③全国高校生フォーラム

１２月１８日（日）にオンラインで開催されたWWL・ＳＧＨ全国高校生フォーラムに三条高校２年生４人が参加した。探究テーマ「新潟県で段ボールコンポストを使おう！」の概要説明及び質疑応答、講評、そしてグループ別の分科会、全体会に参加した。

三条高校1年生作成のポスター

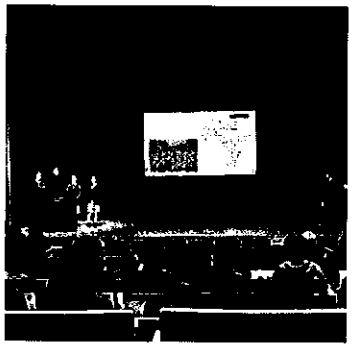


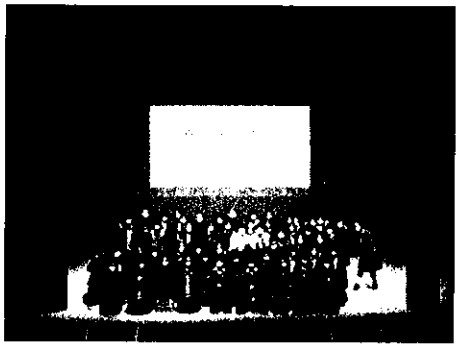
④WWL新潟・高校生フォーラム

令和５年１月３１日（火）に三条市体育文化会館をメイン会場に「今、私たちが考えること　地域・世界・未来に向けて―Send our messages to the world―」をテーマにフォーラムを開催した。

三条高校に加えて、県内の加茂農林高校（県央ネット校）、津南中等教育学校（県央ネット校）高田高校（ＳＳＨ校）、新発田高校（ＳＳＨ校）、国際情報高校（ＳＧＨネットワーク校）、県外から長野県上田高校（WWL拠点校）、海外から台北城市科学大学応用外国語学科高専部（台湾／海外交流校）、新モンゴル日馬富士学園（モンゴル／海外連携校）の７校と、長岡技術科学大学と新潟大学の留学生（学部生、大学院生）４人が参加した。海外の学校はオンラインでの参加となった。参加校の探究活動の発表や、海外からの現地報告、留学生のコメントを交えて行われ、フォーラムの様子は希望した新潟県内の高校がオンラインで視聴した。

進行や発表、質疑応答は英語で行われ、対面とオンラインによるハイブリッド形式での運営となった。運営で明らかになった課題に対処して次年度に予定される高校生国際会議に活かしたい。





（３）海外交流

①留学生受入れ

６月２９日（水）～３月３日（金）　ＡＦＳ（アジア架け橋プロジェクト）留学生(スリランカ)１人を２学年に受入れる。

１０月３１日（月）～１１月２２日（火）

ＡＦＳ短期留学生を、２学年にブルガリアからの１人を、1学年にモンゴルから１人を受け入れる。

留学生が日本語をよく理解できないということで、クラスの何人かの生徒は積極的に英語を駆使してコミュニケーションをとったが、英語も堪能ではないので英語のコミュニケーションもなかなかスムーズではなかった。結果、日本語のコミュニケーションが多くなり、留学生が日本語になれてきたこと、日本語でよいという状況、留学生の人柄もあり交流の輪がクラス全体、学年へと広がった。留学生との交流は、留学生（外国人）を自分とは異なる存在としてみるのではなく、同じとみるべきとの理解を持つ生徒が増え、異文化交流の考え方に好影響を及ぼした。

②オンライン交流

６月１６日（木）　【英語部】台北城市科学大学応用外国語学科高専部（台湾）とのオンライン交流会

１０月６日（木）　【英語部】台北城市科学大学応用外国語学科高専部（台湾）とのオンライン交流会

２月１日（水）　１年生有志生徒１０人　ラオスと交流　１６：１０～１６：５０

３月１日（水）　１年生２年生有志（モンゴル４人、ラオス５人）新モンゴル日馬富士学園、ラオスと交流　１７：００～１７：５０

３月１５日（水）　１年生有志５人　新モンゴル日馬富士学園と交流　１７：００～１７：４５

③海外研修

３月１９日（日）～２３日（木）　生徒１年生１２人　引率教員３人が、ヴェトナムホーチミン市中心に研修を以下のスケジュールで行った。

３月１９日（日）

燕三条駅出発　１１：３２

東京駅着　１３：２８

東京駅発　１４：０２

成田発　１７：４５

ホーチミン着　２２：２５　ホテルへ移動

３月２０日（月）

ホテル出発　８：００

現地校交流　８：３０～

マリー・キュリー高校

両校挨拶（教員・生徒）挨拶

記念品交換

グループ交流

授業・校内見学

午後

日系企業訪問　タナカスケール・ベトナム（ドンナイ省）

生徒代表挨拶
企業概要説明
夕食後ホテルへ

３月２１日（火）
８：３０～　ホーチミン工科大学交歓会
生徒代表挨拶
ワークショップ
午後　　Ｂ＆Ｓプログラム　　昼食から　３つのグループ　半日観光
１８：３０　県人会交流会
生徒代表挨拶
県人会の講演　　テーマ　「海外で働く日本人」
夕食　　歓談
２０：３０　終了　ホテルへ移動
３月２２日（水）
カンザーマングローブ生物圏保護区訪問
７：００　ホテル出発
９：００　カンザーマングローブセンター到着（ホーチミン市郊外）
ベトナム戦争で使用された枯葉剤の影響で壊滅的になったマングローブの再生について学ぶ。
植樹活動を行う。

午後　　ホーチミン市に戻り、ベンタン市場観光
夕食後、ホテルへ戻る
３月２３日（目）
６：００　ホーチミン空港着
８：００　ホーチミン空港発
１６：００　成田空港到着
１７：２０　成田エクスプレス
１８：１８　東京駅着
１８：５２　とき　３４１号
２０：５０　燕三条着　解散

初めての海外研修ということで、参加生徒は緊張して臨んだが、最初の訪問先であるマリー・キュリー校をはじめ訪問先の学生は大変友好的で、英語、日本語を交えながらの交歓が行われた。ベトナムの人々のフレンドリーな姿勢や活気ある市中の雰囲気は、自由で活気あるエネルギーを生徒に体感させたようであった。一方で、長年ベトナムに居住している新潟県人会との交流では、よりリアルなベトナムの生活の様相や、グローバルな活動をする上で必要な態度、あり方について学ぶことができた。タイトなスケジュールではあったが、５日間で生徒の成長に手応えを感じることができる有意義な研修となった。

（４）教員研修・他校視察

①職員研修会
５月１７日（火）　職員研修会（参加35人）　オンラインで実施
「地域の経済や社会に貢献する人材育成について高校教諭に望むこと」
講師：細谷祐二 氏（新潟県立大学）

１１月３０日（水）　新潟大学創生学部田中一裕教授が分野別中間発表会参観し、発表会終了後に教員と意見交換を行った。

②県外ＷＷＬ拠点校視察

１２月２７日（火）　ＷＷＬ先進校視察として、教員２人が筑波大学付属坂戸高等学校、東京都立南多摩中等教育学校の２校を訪問した。両校とも、探究について取り組んできた実績あり。「調べ学習」からの脱却として「当事者意識」を意識させ、自分の在り方やキャリアを考えさせる指導を行っている。

教員２人が、名古屋国際中学校・高等学校、滋賀県立彦根東高校を訪問した。両校と両校ともＳＳＨ、ＳＧＨの蓄積や実績をふまえており、ＷＷＬ事業を学校の特色として打ち出す方向が明確であり、継続的な取組が職員の意識改革をもたらしている。

４校の実績は、今後のＷＷＬ事業の展開を考えていく上で大いに参考になるものとなった。

（５）生徒・職員対象アンケートの分析

ＷＷＬ事業に対する意識や効果の測定のために、以下の項目について学校独自に６月と12月にアンケート調査を行った。

アンケート項目

（「４」そう思う、「３」ややそう思う、「２」あまり思わない、「１」まったく思わない、で回答）①～⑱は生徒と教員共通、⑲～㉗は教員のみ対象

〔課題発見〕

①（生徒は、）県央地域の課題を理解している。

②（生徒は、）日本や世界が直面している問題を理解している。

③（生徒は、）ＳＤＧｓの概要を理解している。

〔課題解決の手法〕

④（生徒は、）文章や情報を正確に読み解き、それについて他者と議論することができる。

⑤（生徒は、）課題について、科学的に思考・分析することができる。

⑥（生徒は、）実験結果やアンケート結果をわかりやすくまとめることができる。

⑦（生徒は、）学校外の人の意見を活かしながら、課題解決に取り組もうとしている。

〔リテラシースキル〕

⑧（生徒は、）相手に伝えるときに、わかりやすく説明しようとしている。

⑨ＩＣＴを活用し、情報を収集、分析、発信することができる。

⑩（生徒は、）英語を使って、目的、場面、状況に応じてコミュニケーションがとれる。

〔マインドセット〕

⑪（生徒は、）海外交流について意欲がある。

⑫（生徒は、）県央地域の産業や特産物に興味がある。

⑬（生徒は、）海外の文化や国際問題に興味がある。

⑭（生徒は、）将来、地域の問題解決に貢献したいと考えている。

⑮（生徒は、）将来、国際的に活躍したいと考えている。

⑯（生徒は、）ＳＤＧｓの達成に貢献したいと考えている。

⑰（生徒は、）自分にはない、多様な価値を持つ他者の考えを取り入れていきたいと考えている。

⑱（生徒は、）希望に満ちた未来を作るために、提言や挑戦ができるリーダーになりたいと考えている。

〔教員の指導〕

⑲私は、生徒が科学的・論理的に思考・分析できるよう、指導を心掛けている。

⑳私は、生徒がわかりやすい説明や発表ができるよう、指導を心掛けている。
㉑私は、教科を超えて連携し、指導にあたっている。

〔ＷＷＬ事業〕

㉒高等学校段階において、文理横断的な学びは重要である。
㉓高等学校段階において、国内外の高等学校等と連携した学びは重要である。
㉔高等学校段階において、大学や外部機関と連携した高度な学びは重要である。
㉕高等学校段階において、海外の連携校等への海外研修（もしくは、オンラインを活用した同程度の成果が期待できるもの）は重要である。
㉖ＷＷＬの取組は、地域の人々に学校の教育方針や取組を理解してもらう上でよい影響を与える。
㉗ＷＷＬの取組は、提言や挑戦ができるリーダー育成に役立つ。

＜２年生の結果＞

2年	R5年2月(%)				R4.6月からの増減(%)				R3.12月からの増減(%)(当該学年1年時)			
	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
①	10.3	71.2	17.1	1.4	0.6	6.1	-6.8	0.1	-1.5	10.7	-7.7	-1.6
②	21.2	69.9	8.9	0.0	1.9	-1.6	0.1	-0.4	-8.6	9.8	-1.2	0.0
③	37.0	58.2	4.8	0.0	-0.6	3.4	-2.0	-0.8	3.4	-2.3	-1.1	0.0
④	23.3	67.1	9.6	0.0	-1.5	3.3	-0.9	-0.8	-0.7	-1.8	2.4	0.0
⑤	15.1	62.3	21.9	0.7	-4.3	3.7	1.7	-1.0	-3.8	4.3	-0.8	0.3
⑥	38.4	51.4	10.3	0.0	3.9	-4.1	1.0	-0.8	7.3	-10.0	3.1	-0.4
⑦	26.0	56.8	15.8	1.4	-6.6	8.1	-0.8	-0.7	2.5	8.1	-9.0	-1.6
⑧	65.8	31.5	2.7	0.0	6.5	-5.9	-0.6	0.0	15.8	-14.7	-0.6	-0.4
⑨	25.3	58.2	15.8	0.7	2.6	-2.1	1.4	-1.8	0.6	1.5	-2.3	0.3
⑩	4.1	32.9	52.1	11.0	-0.9	8.5	-3.4	-4.2	-7.7	2.6	6.7	-1.6
⑪	13.7	30.8	41.8	13.7	-7.3	-1.1	5.6	2.8	-12.8	-10.8	15.3	8.2
⑫	21.2	47.9	25.3	5.5	0.1	-2.3	1.3	0.8	-2.7	-3.7	5.2	1.3
⑬	21.2	49.3	24.0	5.5	-7.8	2.3	5.9	-0.4	-11.5	1.0	7.6	3.0
⑭	23.3	49.3	22.6	4.8	4.0	1.0	-5.1	0.2	2.7	-7.4	3.3	1.4
⑮	8.9	35.6	40.4	15.1	-1.6	-0.9	-2.0	4.6	-10.0	-2.2	4.3	7.9
⑯	37.7	48.6	11.6	2.1	3.2	-2.2	-1.0	0.0	-2.7	2.0	0.7	0.0
⑰	58.2	37.0	4.8	0.0	3.2	-5.5	2.3	0.0	8.6	-7.6	-0.2	-0.8
⑱	20.5	50.0	24.0	5.5	7.1	-3.8	-4.2	0.9	-1.7	-0.4	0.4	1.7

＜１年生＞

1年	R5.2月(%)				R4.6月からの増減(%)				R3.12月からの増減(%)(当該学年1年時)			
	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
①	11.7	57.1	26.5	4.6	6.2	16.0	-23.0	0.8	0.0	-3.4	1.7	1.7
②	30.1	61.7	7.7	0.5	-0.4	0.3	0.0	0.1	0.3	1.7	-2.4	0.5
③	48.0	48.0	3.1	1.0	0.1	-0.8	-0.3	1.0	14.3	-12.5	-2.8	1.0
④	28.1	59.2	12.2	0.5	-3.7	2.8	0.4	0.5	4.1	-9.7	5.1	0.5

⑤	21.4	57.1	20.4	1.0	-2.4	0.5	1.3	0.6	2.5	-0.8	-2.3	0.6
⑥	29.6	61.2	8.7	0.5	-1.3	10.8	-10.0	0.5	-1.5	-0.1	1.5	0.1
⑦	34.7	50.0	12.8	2.6	-0.1	4.7	-5.5	0.9	11.2	1.3	-12.0	-0.4
⑧	69.9	28.6	1.0	0.5	12.3	-9.6	-2.8	0.1	19.9	-17.6	-2.3	0.1
⑨	35.2	53.6	9.7	1.5	5.1	4.8	-9.0	-1.0	10.4	-3.2	-8.4	1.1
⑩	10.7	45.9	36.2	7.1	3.1	15.8	-13.8	-5.1	-1.1	15.7	-9.2	-5.5
⑪	25.5	42.9	24.0	7.7	-3.7	4.3	-1.0	0.4	-1.0	1.3	-2.5	2.2
⑫	19.9	47.4	27.6	5.1	1.3	-0.4	-0.8	0.0	-4.1	-4.2	7.4	0.9
⑬	32.7	45.9	18.4	3.1	-6.3	0.2	6.9	-0.8	-0.1	-2.4	2.0	0.5
⑭	18.9	50.0	27.0	4.1	-3.2	0.8	-0.1	2.4	-1.7	-6.7	7.7	0.7
⑮	18.9	39.3	32.7	9.2	0.2	-4.4	1.3	2.8	0.0	1.5	-3.5	2.0
⑯	43.4	44.4	9.7	2.6	-1.5	-0.5	0.8	1.3	3.0	-2.3	-1.2	0.5
⑰	59.2	35.7	4.1	1.0	-4.4	4.8	-1.0	0.6	9.6	-8.8	-1.0	0.2
⑱	23.0	48.0	24.0	5.1	-1.2	0.1	-1.0	2.1	0.7	-2.5	0.5	1.3

アンケート結果（教員）

教員	2023年2月集計(%)				今年度6月からの増減				前年度12月からの増減			
	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
①	23.1	69.2	3.8	3.8	19.6	7.2	-27.2	0.4	16.2	24.4	-44.4	3.8
②	15.4	65.4	15.4	3.8	15.4	-10.5	-8.8	3.8	-1.9	3.3	-1.9	0.4
③	50.0	42.3	3.8	3.8	39.7	-30.1	-13.4	3.8	25.9	-19.8	-9.9	3.8
④	30.8	46.2	23.1	0.0	30.8	-19.4	-8.0	-3.4	20.4	-29.7	9.3	0.0
⑤	15.4	53.8	26.9	3.8	15.4	-1.3	-11.0	-3.1	11.9	-4.8	-11.0	3.8
⑥	23.1	61.5	15.4	0.0	16.2	-4.0	-5.3	-6.9	16.2	-7.4	-8.8	0.0
⑦	30.8	57.7	11.5	0.0	23.9	-7.8	-12.6	-3.4	17.0	9.4	-26.4	0.0
⑧	30.8	61.5	7.7	0.0	16.5	0.8	-17.3	0.0	13.5	-4.0	-9.5	0.0
⑨	38.5	57.7	0.0	3.8	28.1	-11.3	-20.7	3.8	24.7	-18.2	-10.3	3.8
⑩	0.0	57.7	42.3	0.0	0.0	37.0	-33.6	-3.4	0.0	12.9	-9.4	-3.4
⑪	11.5	76.9	11.5	0.0	8.1	14.9	-19.5	-3.4	1.2	25.2	-26.4	0.0
⑫	19.2	50.0	30.8	0.0	12.3	-5.2	-3.7	-3.4	12.3	-1.7	-10.6	0.0
⑬	11.5	73.1	15.4	0.0	8.1	-9.7	1.6	0.0	1.2	11.0	-12.2	0.0
⑭	15.4	65.4	19.2	0.0	8.5	-10.5	2.0	0.0	5.0	20.6	-25.6	0.0
⑮	3.8	61.5	34.6	0.0	3.8	13.3	-17.1	0.0	3.8	27.1	-30.9	0.0
⑯	30.8	50.0	19.2	0.0	27.3	-25.9	-1.5	0.0	10.1	-5.2	-4.9	0.0
⑰	38.5	53.8	7.7	0.0	38.5	-28.9	-9.5	0.0	21.2	-18.6	-2.7	0.0
⑱	3.8	57.7	34.6	3.8	0.4	26.7	-27.5	0.4	-3.1	6.0	-6.8	3.8

⑲	38.5	53.8	0.0	7.7	28.1	-18.6	-17.2	7.7	21.2	-15.1	-13.8	7.7
⑳	42.3	46.2	3.8	7.7	28.5	-29.7	-6.5	7.7	28.5	-33.2	-3.1	7.7
㉑	30.8	46.2	15.4	7.7	16.5	3.3	-27.5	7.7	23.9	-9.0	-19.1	4.2
㉒	73.1	26.9	0.0	0.0	52.4	-42.0	-10.3	0.0	24.8	-21.4	-3.4	0.0
㉓	50.0	46.2	3.8	0.0	22.4	-12.5	-9.9	0.0	22.4	-19.4	-3.1	0.0
㉔	57.7	42.3	0.0	0.0	23.2	-16.3	-6.9	0.0	26.7	-23.2	-3.4	0.0
㉕	34.6	65.4	0.0	0.0	13.9	10.2	-20.7	-3.4	13.9	-10.5	-3.4	0.0
㉖	53.8	38.5	7.7	0.0	36.6	-20.2	-16.4	0.0	29.7	-37.4	7.7	0.0
㉗	50.0	42.3	7.7	0.0	32.8	-23.2	-2.7	-6.9	8.6	-16.3	7.7	0.0

比較結果をふまえての分析

- １年生、２年生とも⑧、⑩の「４，３」の数値が今年度の６月から増加している。リテラシースキルとしての他者への配慮、コミュニケーションスキルとしての英語対話についてＷＷＬの取り組みの成果が出ていると考えている。
- １年生の英語によるコミュニケーション力の「４，３の」数値の伸びが、６月や昨年度の１学年と比較して大きい。ＷＷＬ論理・表現Ｉ等の英語力向上の取り組みの成果と考えている。
- ２年生の⑪⑬⑮の「２，１」の増加がマインドセットとして懸念される。２年生の探究課題が地域であったことで興味関心が海外から離れたのか、地域と海外の関係性の理解が進まなかったのか、その要因について現段階では十分できていないが、グローカル探究とＳＤＧｓ世界史の振り返りを踏まえて、来年度の改善に努めることとする。
- ２年生の⑱の「４」が６月からの増加したことは注目点である。昨年の１２月の数値からは微減しているが、リーダーとして率先して取り組み姿勢を３年生進級直前、志望進路決定の時期を鑑みるとマインドセットの点で望ましい状況と考える。
- 教員のＷＷＬ事業に対する肯定評価が昨年１２月から、今年度６月から比較して軒並み増加している。今年度は１年生のグローカル探究をチームティーチング形式として、学年をまたいで関わることや、拠点校としての取り組みが２年目であることで、より多くの教員がＷＷＬ事業に関わることになったことの成果であると捉えている。

3　管理機関の取組

（１）第１回運営指導委員会・第１回検証委員会

①　日時　令和４年６月２３日（木）　14:00～16:00

②　場所　新潟県立三条高等学校会議室

③　参加者

氏名（敬称略）	所属	備考
城所　俊一	長岡技術科学大学大学院 生物機能工学専攻長　教授	運営指導委員 （オンライン）
細谷　祐二	新潟県立大学国際経済　学部　教授	運営指導委員 （オンライン）
大橋　慎太郎	新潟大学農学部　准教授	運営指導委員 （オンライン）
アハメド・シャハリアル 永井元章	三条市立大学　学長	運営指導委員 ［代理出席］
中川　恵一郎	三条商工会議所　産業振興課長	運営指導委員
高野　雅哉	燕商工会議所　事務局長	運営指導委員
高橋　康生	JA 全農にいがた　担い手・営農支援課長	運営指導委員
阿部　佑輝	三条信用金庫　人事教育部　副調査役	検証委員
関根　龍一	関根龍一税理士事務所	検証委員
槁本　敏郎	新潟県教育庁高等学校教育課	参事
長谷川　聡	新潟県教育庁高等学校教育課	指導主事
近藤　崇	新潟県立教育センター	指導主事
内田　卓利	三条高等学校	校長
鈴木　信行	三条高等学校	教頭
中川　浩宣	三条高等学校　WWL 運営委員	１学年　日本史
風間　綾子	三条高等学校　WWL 運営委員	２学年　世界史
押木　和子	三条高等学校　WWL 運営委員	１学年　国語
春日　孝児	三条高等学校　WWL 運営委員	２学年　英語

④　内容

ア　事業概要の説明

イ　拠点校の今年度活動計画説明

ウ　質疑応答

指導・助言事項

・２年生のグループ課題の設定について，テーマに大きな偏りがある。

・地域に密着したテーマが多く，国際的な視点が希薄であるように感じる。

・課題に対してどのような仮説を立てられるのかが重要である。仮説を立てることが可能な課題を意識して選ぶ必要がある。

・生徒はとても大きなテーマを扱っている。テーマを絞り込みながら課題研究を行ってほしい。

・生徒は多忙だが，生徒にビジョンを持たせながら活動を行わせるとより効果的である。

・設定したテーマから多くの考察を行い，来年の高校生国際会議につなげてほしい。

・テーマ設定については，生徒によく理解させたうえで，念入りに行ってほしい。

・設定されたテーマの中には，複雑なものもある。地元の方々からもアドバイスを受けてほ

しい。
・脱炭素の実情を知った上で，ＳＤＧｓ達成が自分たち自身のためでもあることを知ってほしい。
・まず地域に目を向けて理解した後，次のステップとして海外にも注目してほしい。
・ＳＤＧｓの諸問題には解答がない。先生方と共に悩んでいく過程が重要ではないか。

（２）第２回運営指導委員会

① 日時　令和４年１１月３０日（水）10:00～12:00
② 場所　新潟県立三条高等学校会議室
③ 参加者

氏名（敬称略）	所属	備考
城所　俊一 ［佐々木徹］	長岡技術科学大学大学院 生物機能工学専攻長　教授	運営指導委員 ［代理出席］
細谷　祐二	新潟県立大学　国際経済学部　教授	運営指導委員 （オンライン）
大橋　慎太郎	新潟大学　農学部　准教授	運営指導委員 （オンライン）
アハメド・シャハリアル ［永井　元章］	三条市立大学　学長	運営指導委員 ［代理出席］
中川　恵一郎	三条商工会議所　産業振興課長	運営指導委員
高橋　康生	JA 全農にいがた　担い手・営農支援課長	運営指導委員
槇本　敏郎	新潟県教育庁高等学校教育課	参事
長谷川　聡	新潟県教育庁高等学校教育課	指導主事
近藤　崇	新潟県立教育センター	指導主事
内田　卓利	三条高等学校	校長
鈴木　信行	三条高等学校	教頭
中川　浩宣	三条高等学校　WWL 運営委員	１学年　日本史
風間　綾子	三条高等学校　WWL 運営委員	２学年　世界史
押木　和子	三条高等学校　WWL 運営委員	１学年　国語
春日　孝児	三条高等学校　WWL 運営委員	２学年　英語
平澤　弥生	三条高等学校　WWL 事務局	海外交流アドバイザー
高橋　立子	三条高等学校　WWL 事務局	

④ 内容
ア　進捗状況の説明
・　探究活動
・　英語力向上の取り組み
・　ＷＷＬ新潟・高校生フォーラムの開催
イ　質疑応答
⑤ 指導・助言事項
・企業へのアポイントを取るなどの活動は評価できる。今後の調べ学習を進める上で重要である。アンケートについては，設問の工夫が必要だろう。

・事業も２年目に入り，課題研究の内容がさらに進捗している。三条高校の先生方の指導が行き届いていることがわかる。しかし，課題研究の肝心な要素である「今後への提言」の部分の内容に不足を感じる。課題学習に求められるのは，「調べること」や「プレゼンテーションを上手に行う」ことでなく，提言を行うことである。生徒にもっと深く考えさせなければならない。
・対面での活動は，今後さらに増えていくものと思われる。対面で活動を行うことのできる強みを前面に出すことで，このプロジェクトはますます良いものになっていくだろう。インターネット等で「答え」を見つけることはできるが，生徒は体験や経験も重ねながら，知識や知恵を自身に染みこませてほしい。
・活動実績をみる限り，非常に手間がかかっていることがわかる。報告の背景には，そこには表れない事前準備が必要である。とても感心している。
・海外の生徒と交流するためには，地元を知っておく必要がある。そのためにも，ローカルについての学びは必要であり，それによって交流の内容も深まる。ぜひとも海外研修に参加して，見聞を深めてほしい。
・農業に関する課題が多く設定されており，喜ばしい。反面，扱うテーマが多岐に渡ることもあり，調査が難しくなる。リサーチを提言までどのように導いていくか，よく考える必要がある。

（３）第３回運営指導委員会・第２回検証委員会

①　日時　令和５年２月１４日（火）10:00～12:00

②　場所　新潟県立三条高等学校会議室

③　参加者

氏名（敬称略）	所属	備考
城所　俊一	長岡技術科学大学大学院 生物機能工学専攻長　教授	運営指導委員 （オンライン）
大橋　慎太郎	新潟大学　農学部　准教授	運営指導委員
アハメド・シャハリアル ［永井　元章］	三条市立大学　学長	運営指導委員 ［代理出席］
中川　恵一郎	三条商工会議所　産業振興課長	運営指導委員
槇本　敏郎	新潟県教育庁高等学校教育課	参事
阿部　佑輝	三条信用金庫　人事教育部　副調査役	検証委員
関根　龍一	関根龍一税理士事務所	検証委員
近藤　崇	新潟県立教育センター	指導主事
内田　卓利	三条高等学校	校長
鈴木　信行	三条高等学校	教頭
中川　浩宣	三条高等学校　WWL 運営委員	１学年　日本史
風間　綾子	三条高等学校　WWL 運営委員	２学年　世界史
押木　和子	三条高等学校　WWL 運営委員	１学年　国語
春日　孝児	三条高等学校　WWL 運営委員	２学年　英語
平澤　弥生	三条高等学校　WWL 事務局	海外交流アドバイザー
高橋　立子	三条高等学校　WWL 事務局	

④　内容

ア　今年度の事業報告の説明

イ　アンケート結果の報告
ウ　質疑応答

⑤　指導・助言事項

・今年度の成果を文書に残し，成果を来年度につなげる取組が必要になるだろう。
・留学生との交流は三条高校の生徒だけでなく，留学生にも有益な体験となる。今後も留学生との取組を増やしてほしい。
・先輩による講話など，探究活動の成果を後輩に伝える活動を行い，実績を次の学年以降につなげてほしい。
・生徒たちにとっては非常に有意義な事業だが，先生方には負担ではないだろうか。働き方改革が求められる中で，先生方におかれても健康等に配慮しながら，今後も御指導をお願いしたい。
・２年目に入り，今後の展望がよくわかるようになった。周囲の環境が整備できれば，生徒は素晴らしい成果を出すことができることがよくわかった。生徒のあいさつもよく，活動に対して熱心である。

（4）カリキュラム・アドバイザーによる拠点校指導

高等学校教育課及び県立教育センターの指導主事の２人が拠点校を定期的に訪問し，事業の進捗状況を確認するとともに，令和６年度に開催する高校生国際会議の開催準備を行った。また、運営指導委員会や検証委員会にも参加し、拠点校に対する指導や助言を共有した。その他，クラウドファンディング設置のための準備会合や，新たに協定を結ぶ海外の高等学校との連絡や調整について，海外交流アドバイザーと連携しながら行った。

（5）クラウドファンディングの実施準備

令和６年度より開始するクラウドファンディングの実施に向け，拠点校との打合せを定期的に行った。ＲＥＡＤＹＦＯＲ株式会社 リードキュレーター 齋藤 智美様，拠点校管理職，教育委員会担当指導主事の三者において，令和６年度のクラウドファンディングに係る具体的な時期や詳細な実施方法を確認した。

発行日／令和5年3月
発行者／新潟県立三条高等学校
〒955-0803 三条市月岡1丁目2番1号
TEL 0256-35-5500　FAX 0256-35-5735